

# 本庄市こども計画

(策定イメージ)

令和7年3月（予定）

本庄市

本庄市こども計画の策定にあたって

---

市長挨拶挿入予定

## 目次

<b>第1章 計画の概要</b> .....	<b>1</b>
1. 計画策定の趣旨 .....	1
2. 計画の法的根拠 .....	2
3. 本庄市における計画の位置づけ .....	4
4. 計画の期間.....	4
5. 計画の対象.....	4
6. 計画の策定体制 .....	5
(1) 本庄市子ども・子育て会議の設置 .....	5
(2) 本庄市子ども・子育て支援事業計画策定庁内検討委員会の設置.....	5
(3) 子育て世帯の実態把握のためのアンケートの実施 .....	5
(4) こどもや若者の意見聴取 .....	5
(5) 子育て環境の向上に関する団体調査の実施.....	5
<b>第2章 本庄市の子ども・子育て環境の状況</b> .....	<b>6</b>
1. 本庄市の姿.....	6
(1) 人口構造 .....	6
(2) 障がいのあるこども .....	7
(3) 出生の動向 .....	8
(4) 世帯の状況 .....	8
(5) 婚姻・離婚の状況.....	10
(6) 支援を必要とする人の状況 .....	10
2. 本庄市における子ども・子育て支援の状況 .....	11
(1) 保育所の設置状況・利用状況.....	11
(2) 幼稚園の設置状況・利用状況.....	11
(3) 認定こども園の設置状況・利用状況 .....	12
(4) 学童保育施設の設置状況・利用状況 .....	12
(5) 子ども食堂・学習支援の実施状況 .....	12
<b>第3章 市民アンケート調査からみた本庄市の現状</b> .....	<b>13</b>
1. 調査の概要.....	13
(1) 調査の目的と実施概要 .....	13
(2) 調査結果における数値の基本的な取り扱いについて.....	15
2. 市民アンケート調査の結果（概要） .....	15
(1) 未就学児の保護者対象調査 .....	15
(2) 小学生の保護者対象調査 .....	20
(3) 小学生対象調査.....	25
(4) 中学生対象調査.....	29

(5) 保護者対象調査.....	33
(6) 16～39 歳の若者世代対象調査.....	37
<b>第 4 章 団体調査結果からみた本庄市の現状.....</b>	<b>42</b>
<b>第 5 章 計画の方向性.....</b>	<b>43</b>
1. 本庄市における課題.....	43
(1) 仕事と家庭の両立.....	43
(2) 子育て世帯の孤立化.....	43
(3) 心身に困難を抱えるこどもの支援.....	43
(4) 経済的に困窮する家庭への支援.....	43
(5) 意見を聴かれにくいこどもや若者への支援.....	43
(6) こどもまんなか社会の実現.....	44
(7) こども・若者、子育て家庭等への総合的な支援体制の構築.....	44
2. 計画の基本理念.....	45
3. 基本目標.....	45
(1) 基本目標 1 次世代の健やかな成長の支援.....	45
(2) 基本目標 2 生活困窮世帯のこども及び子育て当事者の支援.....	45
(3) 基本目標 3 社会における子育て支援環境の向上.....	46
(4) 基本目標 4 子ども・子育て支援事業の推進.....	46
(5) 基本目標 5 こどもまんなか社会の実現に向けた体制整備.....	46
4. 施策の体系.....	47

## 第1章 計画の概要

---

### 1. 計画策定の趣旨

我が国では、長年にわたる少子高齢化が深刻な課題となっています。

令和4年の人口動態統計（厚生労働省）によると、日本の合計特殊出生率（1人の女性が生涯に産む子どもの平均数）は1.26まで低下しており、これは人口維持に必要とされるおおよその水準である2.1を大きく下回っています。また、年間出生数も過去最低を記録した令和3年をさらに下回り、初めて80万人台を割り込みました。

少子化の進行は将来的な生産年齢人口（15～64歳人口）の減少を意味しており、労働力不足や高齢者の増加に伴う現役世代への負担増が危惧される状況となっています。

子どもや子育て世代の状況をみると、核家族化や地域のつながりの希薄化、女性の社会進出に伴う共働き世帯の増加、若年層の経済的不安定さなど、子どもや子育て世帯を取り巻く環境は依然として厳しい状況にあり、子育てに不安や孤立、負担を感じる家庭も少なくありません。

こうしたなか、令和5年4月1日に内閣府の外局として「こども家庭庁」が発足し、少子化対策や子育て支援、いじめなど複数省庁にまたがっていた子どもを取り巻く課題に一元的に取り組む、こども・若者がぶつかるさまざまな課題を解決し、大人が中心になって作ってきた社会を「こどもまんなか<sup>1</sup>」社会へと作り変えていくための司令塔として機能することが期待されています。

また、「こども家庭庁」の発足と同日、こども施策を社会全体で総合的かつ強力に推進していくための包括的な基本法として、「こども基本法」が施行され、全てのこどもが、将来にわたって幸福な生活を送ることができる社会の実現を目指しています。

さらに、令和5年12月22日、こども基本法に基づき、こども政策を総合的に推進するため、政府全体のこども施策の基本的な方針等を定める「こども大綱」が閣議決定されました。

「こども基本法」では、都道府県は、国の大綱を勘案して、「都道府県こども計画」を作成するよう、また、市町村は、国の大綱と「都道府県こども計画」を勘案して、「市町村こども計画」を作成するよう、それぞれ、努力義務が課せられています。

本市においては、令和2年3月に「第2期本庄市子ども・子育て支援事業計画」を策定、「安心して子どもを生み育てることができる支援体制づくり ～子どもが 親が 地域が 支え合い ともに育つ本庄市～」を基本理念に、子ども・子育て支援に関する各種事業の推進に努めてきました。

現行の「第2期本庄市子ども・子育て支援事業計画」がその計画期間を終了することを受けて、これまでの市の取り組みを振り返るとともに、今後の子ども・子育て支援における本市のあり方を定めるため「本庄市こども計画」を策定するものです。

---

<sup>1</sup> こどもまんなか社会…全てのこども・若者が、日本国憲法、こども基本法及びこどもの権利条約の精神にのっとり、生涯にわたる人格形成の基礎を築き、自立した個人としてひとしく健やかに成長することができ、心身の状況、置かれている環境等にかかわらず、ひとしくその権利の擁護が図られ、身体的・精神的・社会的に将来にわたって幸せな状態（ウェルビーイング）で生活を送ることができる社会。

## 2. 計画の法的根拠

本計画は、こども基本法第10条第2項の規定による「市町村こども計画」に該当するものです。また、同法第10条第5項では、「市町村こども計画は、子ども・若者育成支援推進法第9条第2項に規定する市町村子ども・若者計画、子どもの貧困対策の推進に関する法律第9条第2項に規定する市町村計画その他法令の規定により市町村が作成する計画であってこども施策に関する事項を定めるものと一体のものとして作成することができる。」とされています。

「本庄市こども計画」は、こども基本法の規定に則り、市町村子ども・若者計画、市町村子どもの貧困対策計画、子ども・子育て支援法第61条第1項の規定に基づいて定める市町村子ども・子育て支援事業計画及びをこども施策に関する事項を定めるその他計画と一体的に策定し、こども分野の総合的な計画として推進します。

### ■こども基本法（抜粋）■

（都道府県こども計画等）

第十条 都道府県は、こども大綱を勘案して、当該都道府県におけるこども施策についての計画（以下この条において「都道府県こども計画」という。）を定めるよう努めるものとする。

2 市町村は、こども大綱（都道府県こども計画が定められているときは、こども大綱及び都道府県こども計画）を勘案して、当該市町村におけるこども施策についての計画（以下この条において「市町村こども計画」という。）を定めるよう努めるものとする。

3 都道府県又は市町村は、都道府県こども計画又は市町村こども計画を定め、又は変更したときは、遅滞なく、これを公表しなければならない。

4 都道府県こども計画は、子ども・若者育成支援推進法第九条第一項に規定する都道府県子ども・若者計画、子どもの貧困対策の推進に関する法律第九条第一項に規定する都道府県計画その他法令の規定により都道府県が作成する計画であってこども施策に関する事項を定めるものと一体のものとして作成することができる。

5 市町村こども計画は、子ども・若者育成支援推進法第九条第二項に規定する市町村子ども・若者計画、子どもの貧困対策の推進に関する法律第九条第二項に規定する市町村計画その他法令の規定により市町村が作成する計画であってこども施策に関する事項を定めるものと一体のものとして作成することができる。

## ■子ども・若者育成支援推進法（抜粋）■

（都道府県子ども・若者計画等）

第九条 都道府県は、子ども・若者育成支援推進大綱を勘案して、当該都道府県の区域内における子ども・若者育成支援についての計画（以下この条において「都道府県子ども・若者計画」という。）を定めるよう努めるものとする。

2 市町村は、子ども・若者育成支援推進大綱（都道府県子ども・若者計画が定められているときは、子ども・若者育成支援推進大綱及び都道府県子ども・若者計画）を勘案して、当該市町村の区域内における子ども・若者育成支援についての計画（次項において「市町村子ども・若者計画」という。）を定めるよう努めるものとする。

3 都道府県又は市町村は、都道府県子ども・若者計画又は市町村子ども・若者計画を定めたときは、遅滞なく、これを公表しなければならない。これを変更したときも、同様とする。

## ■子どもの貧困対策の推進に関する法律（抜粋）■

（都道府県計画等）

第九条 都道府県は、大綱を勘案して、当該都道府県における子どもの貧困対策についての計画（次項及び第三項において「都道府県計画」という。）を定めるよう努めるものとする。

2 市町村は、大綱（都道府県計画が定められているときは、大綱及び都道府県計画）を勘案して、当該市町村における子どもの貧困対策についての計画（次項において「市町村計画」という。）を定めるよう努めるものとする。

3 都道府県又は市町村は、都道府県計画又は市町村計画を定め、又は変更したときは、遅滞なく、これを公表しなければならない。

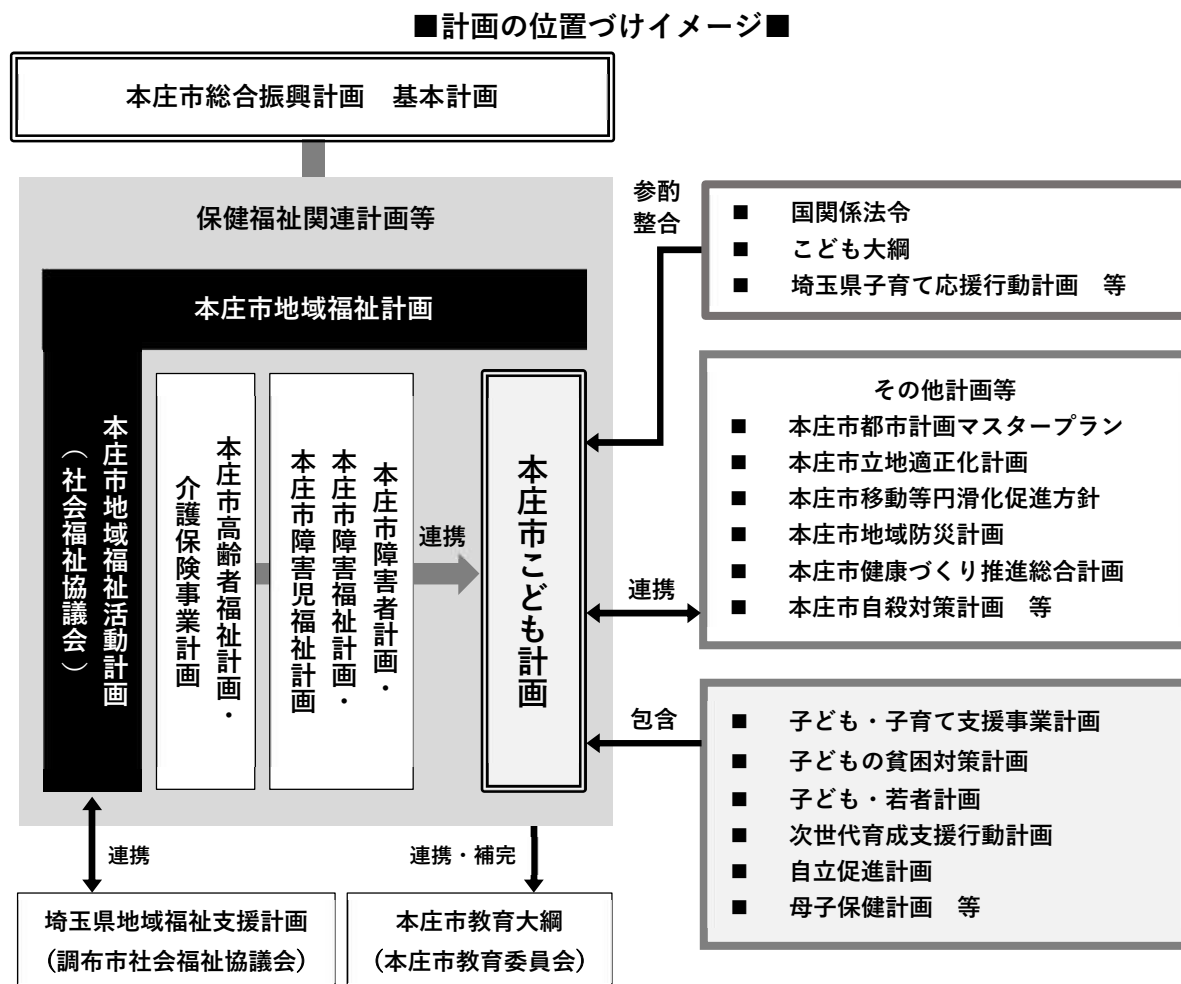
## ■子ども・子育て支援法（抜粋）■

第六十一条 市町村は、基本指針に即して、五年を一期とする教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の提供体制の確保その他この法律に基づく業務の円滑な実施に関する計画（以下「市町村子ども・子育て支援事業計画」という。）を定めるものとする。

…以下省略

### 3. 本庄市における計画の位置づけ

本計画は、市の「本庄市総合振興計画」及び「本庄市地域福祉計画」等の関連する福祉計画との整合性を図りながら策定しています。また、県の「埼玉県子育て応援行動計画」との整合性を図っています。



### 4. 計画の期間

本計画の期間は、子ども・子育て支援法に規定される市町村子ども・子育て支援事業計画で定められた5年間（令和7年度～令和11年度）とします。なお、時勢の変化等の必要に応じて、随時見直すものとします。

### 5. 計画の対象

本計画は、本市に居住するすべての子ども・若者と子育て家庭を対象にするものです。なお、本計画における「子ども・若者」とは、概ね40歳未満の市民を指します。



## 6. 計画の策定体制

### (1) 本庄市子ども・子育て会議の設置

子ども・子育て支援法第72条において、市町村は、条例で定めるところにより、「市町村子ども・子育て支援事業計画」の策定などの事務を処理するため、審議会その他の合議制の機関を設置するよう努めることとされており、本計画の策定においても、子どもの保護者、子ども・子育て支援に関する関係団体からの推薦を受けた者、子ども・子育て支援に関する事業に従事する者、子ども・子育て支援に関し学識経験のある者、労働者を代表する者、公募による市民、関係行政機関の職員、その他市長が必要と認める者学識経験者、から構成された「本庄市子ども・子育て会議」において意見を聴取しています。

### (2) 本庄市子ども・子育て支援事業計画策定庁内検討委員会の設置

子育て支援課を中心に庁内の関係部局職員により構成された「本庄市子ども・子育て支援事業計画策定庁内検討委員会」において、計画策定に必要な事項に関して検討を行いました。

### (3) 子育て世帯の実態把握のためのアンケートの実施

本計画策定にあたり、子育ての状況や家庭における生活の状況、幼児期の教育・保育に対するニーズを把握するため、就学前児童及び小学校児童のいる世帯の中から無作為に抽出した世帯を対象に、「本庄市子ども・子育て支援に関するニーズ調査」を実施しました。

また、子育て世帯の日ごろの生活の実態把握のため、市立小学校5年生及び市立中学校5年生の児童・生徒の保護者を対象に、「本庄市子どもの生活状況調査（保護者票）」を実施しました。

### (4) こどもや若者の意見聴取

「こども政策の新たな推進体制に関する基本方針」（令和3年12月21日閣議決定）を踏まえ、こども家庭庁の設置を待たず、政策決定過程におけるこどもの意見聴取とその反映及びこどもや若者の参画を実現するため、市立小学校5年生及び市立中学校2年生の児童・生徒本人に対して「子どもの生活についてのアンケート（小学生アンケート）」、「子どもの生活についてのアンケート（中学生アンケート）」を実施しました。また、市内在住の16～39歳のこどもや若者世代の中から無作為に抽出した方を対象に「本庄市子ども・若者意識調査」を実施しました。

### (5) 子育て環境の向上に関する団体調査の実施

本計画策定にあたり、子どもやその保護者に接することの多い子育て支援団体や事業者等を対象に、日頃接している子どもや保護者の様子や地域・行政に求める役割などを把握するため、ヒアリングや「本庄市子育て環境の向上に関するアンケート」を実施しました。

## 第2章 本庄市の子ども・子育て環境の状況

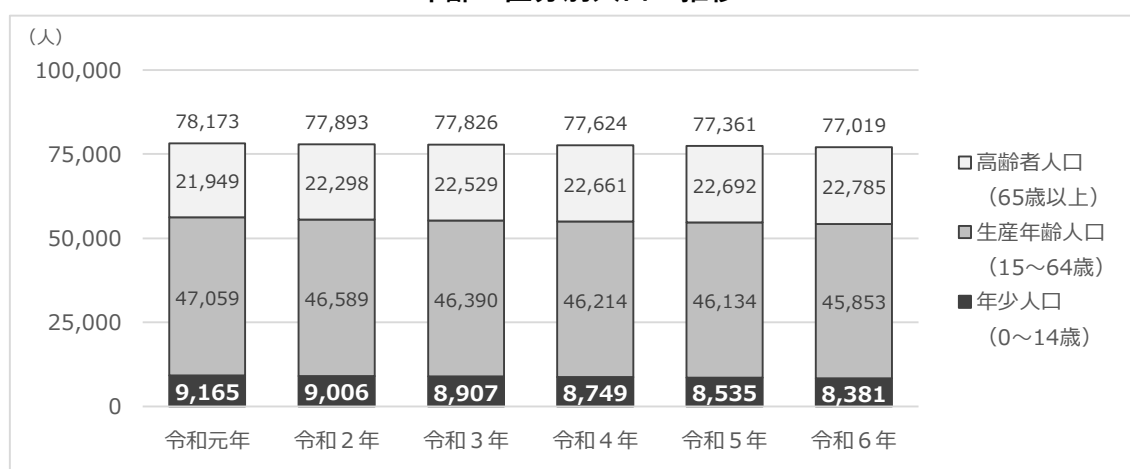
### 1. 本庄市の姿

#### (1) 人口構造

令和元年から令和6年までの人口の推移をみると、総人口は減少傾向で推移しています。

年齢3区分別でみると、65歳以上の高齢者人口が増加しているのに対し、0～14歳の年少人口及び15～64歳の生産年齢人口は減少しています。

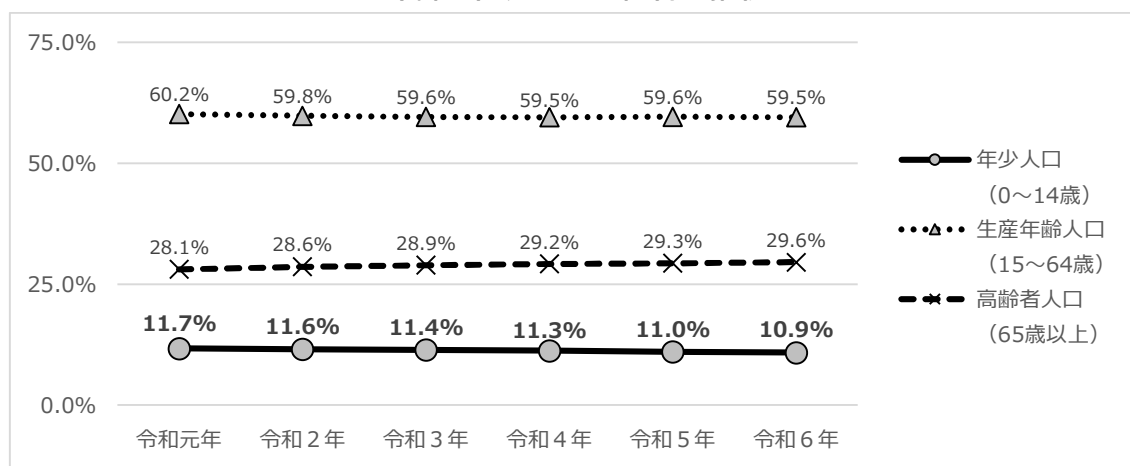
■年齢3区分別人口の推移■



資料：住民基本台帳（各年10月1日）

また、年齢3区分別人口を割合でみると、少子化に伴って年少人口割合は低下傾向にあり、令和6年には市の総人口の10.9%となっています。

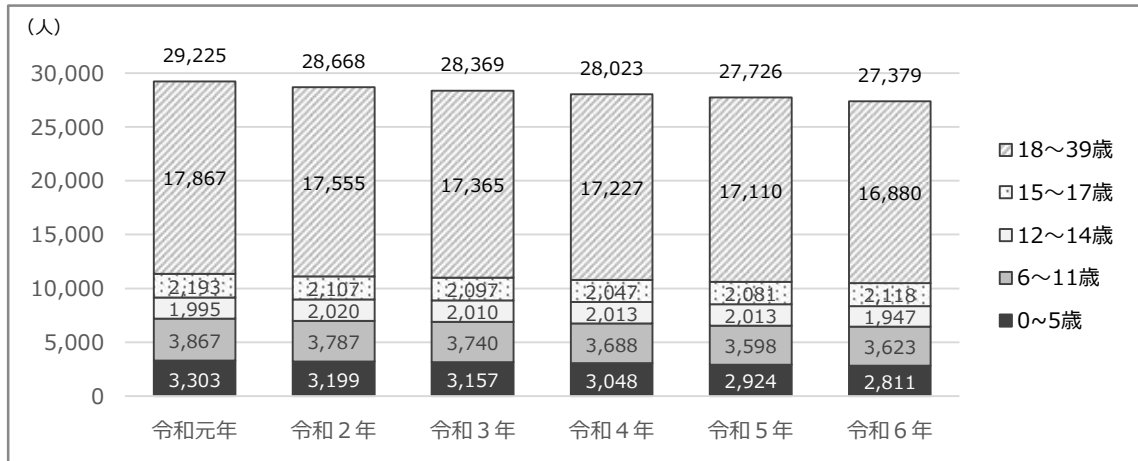
■年齢3区分別人口割合の推移■



資料：住民基本台帳（各年10月1日）

こども・若者（0～39歳）の人口についてみると、令和元年から令和6年まですべての年齢層で返照しており、全体として1,846人の減少となっています。

■こども・若者の人口の推移■

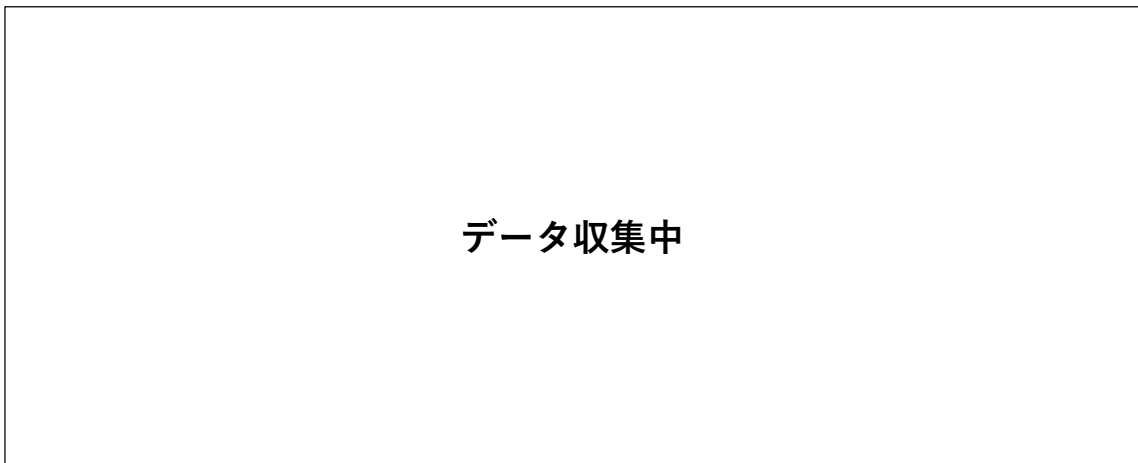


資料：住民基本台帳（各年10月1日）

## （2）障がいのあるこども

障害のある子ども（障がい児）についてみると、●●傾向にあることがわかります。

■障がいのあるこどもの数の推移■



資料：障害福祉課（各年度末）

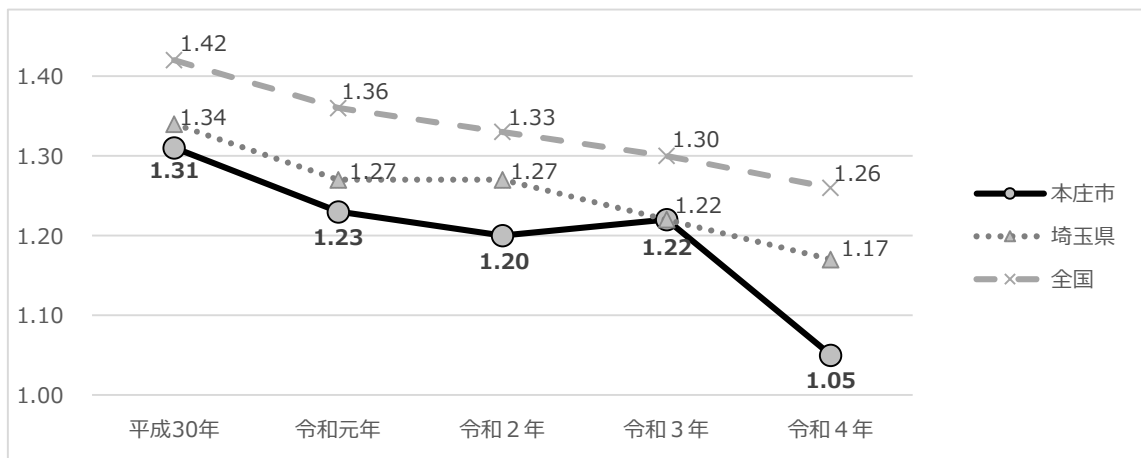
### (3) 出生の動向

近年の合計特殊出生率をみると、本庄市、埼玉県、全国ともに低下傾向にあり、本庄市は埼玉県、全国の水準を下回っています。

特に、本市においては令和4年の合計特殊出生率が1.05を記録しており、前年から大きく低下しています。

国立社会保障・人口問題研究所が公表している「人口統計資料集（2024年度版）」によると、令和4年度時点の「人口置換水準」（人口が長期的に増えも減りもせず一定となる出生の水準を）は2.07となっており、本市の人口減少は加速していることがうかがえます。

■合計特殊出生率の推移■

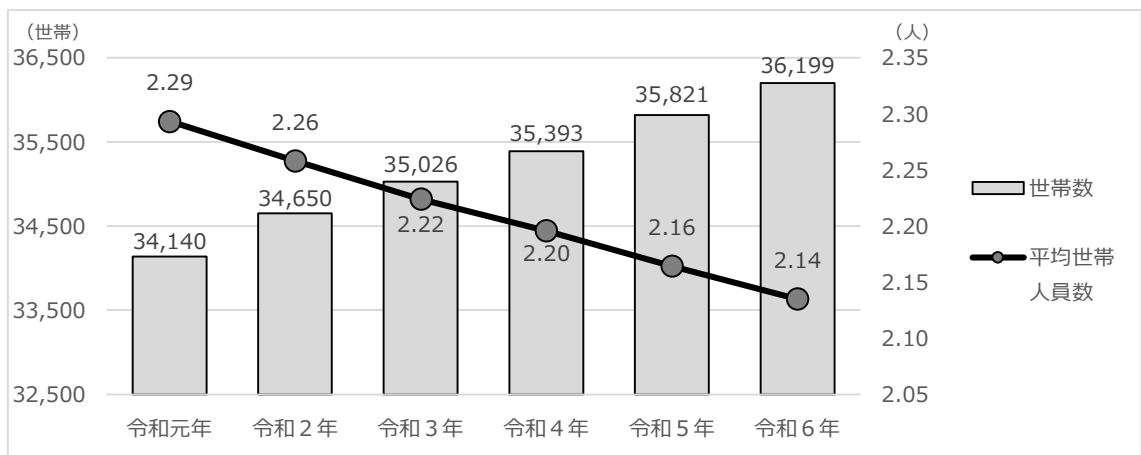


資料：「埼玉県の人口動態概況」

### (4) 世帯の状況

本市の世帯数と平均世帯人員数の推移をみると、世帯数は一貫して上昇傾向にあるのに対し、総人口の減少が続いているため、平均世帯人員数は低下傾向にあります。

■世帯数と平均世帯人員数の推移■



資料：住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査（各年1月1日）

一般世帯数は平成 27 年に一時的に減少を記録していますが、おおむね増加傾向にあり、令和 2 年には 32,949 世帯となっています、

家族類型別にみると、「うち男親と子どもからなる世帯」と「うち女親と子どもからなる世帯」が増加傾向にあり、ひとり親世帯とみられる世帯が増加しています。家族のあり方が多様化する中、こども・若者とその保護者を社会全体で支える仕組みの重要性が高まっています。

### ■家族類型別世帯数の推移■

単位：世帯

	平成 17 年	平成 22 年	平成 27 年	令和 2 年
<b>一般世帯数</b>	<b>29,197</b>	<b>32,161</b>	<b>30,943</b>	<b>32,949</b>
うち核家族世帯	17,496	17,533	17,773	18,714
うち夫婦のみの世帯	5,225	5,526	5,857	6,492
うち夫婦と子どもからなる世帯	9,551	9,082	8,868	8,907
うち男親と子どもからなる世帯	452	470	504	560
うち女親と子どもからなる世帯	2,268	2,455	2,544	2,755

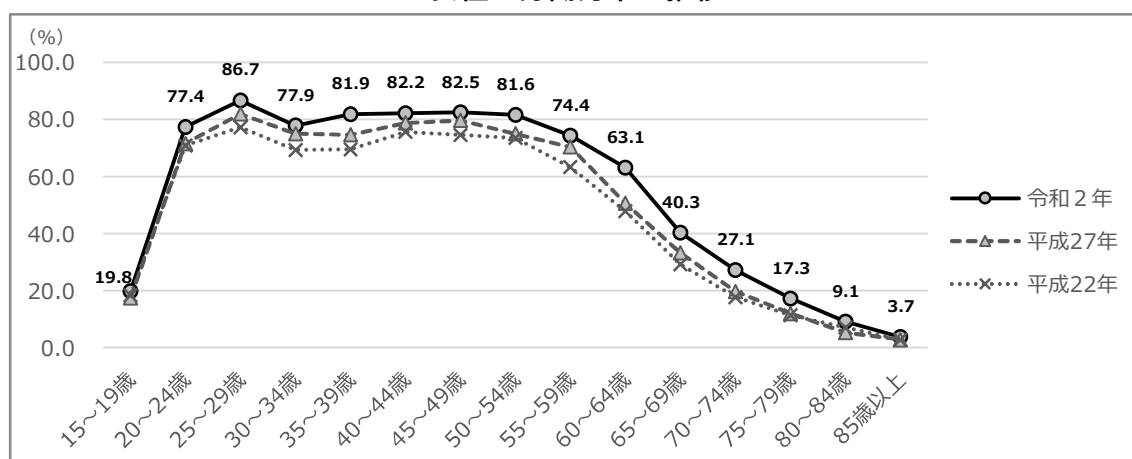
資料：国勢調査

### (4) 女性の労働力率

本市の女性の労働力率をみると、令和 2 年国勢調査結果では、10 年前の平成 22 年と比較して全体的に上昇傾向にあり、女性の社会進出が促進されていることがうかがえます。

一方、30 代で労働力率が低下する、いわゆる「M字カーブ」の状況が続いています。

### ■女性の労働力率の推移■

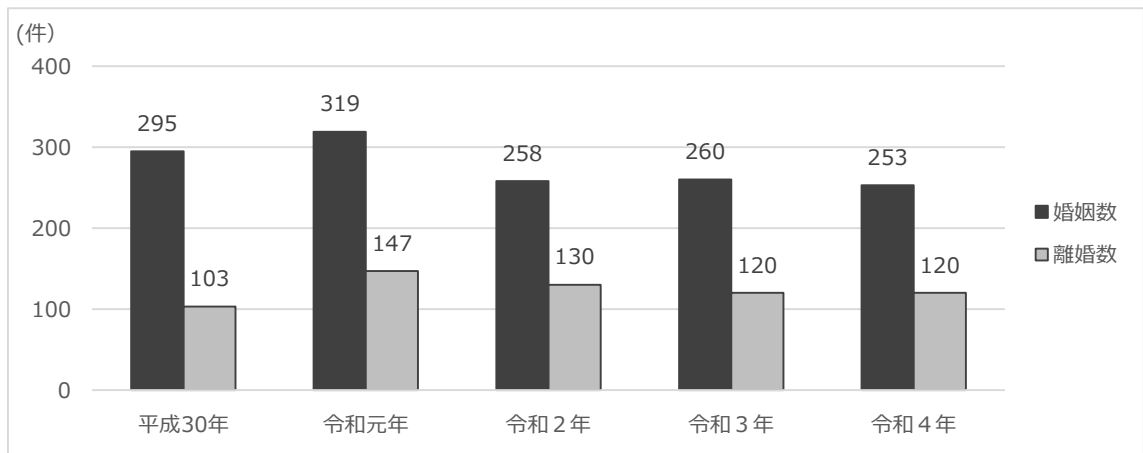


資料：国勢調査

(5) 婚姻・離婚の状況

近年の婚姻数をみると、令和元年に 319 件を記録したものの、その後は 250～260 件で推移しています。また、離婚数については、令和 4 年で 120 件となっています。

## ■婚姻数・離婚数の推移■

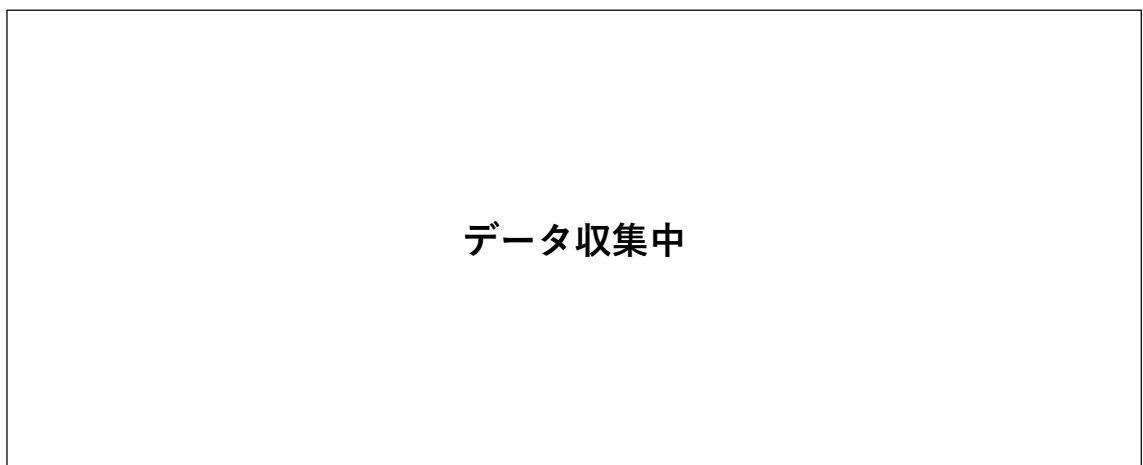


資料：「埼玉県の人口動態概況」

#### (6) 支援を必要とする世帯の状況

[illegible]

## ■生活保護受給世帯数と保護率の推移■



資料：生活自立支援課

## 2. 本庄市における子ども・子育て支援の状況

### (1) 保育所の設置状況・利用状況

説明文を挿入。説明文を挿入。説明文を挿入。説明文を挿入。説明文を挿入。説明文を挿入。説明文を挿入。説明文を挿入。説明文を挿入。説明文を挿入。説明文を挿入。説明文を挿入。

■保育所の設置状況・利用状況■

		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
公立保育所	園					
私立保育所	園					
計	園					
定員数	人					
在籍児童数	人					
入所率	%					
待機児童数	人					

資料：保育課（各年10月1日）

### (2) 幼稚園の設置状況・利用状況

説明文を挿入。説明文を挿入。説明文を挿入。説明文を挿入。説明文を挿入。説明文を挿入。説明文を挿入。説明文を挿入。説明文を挿入。説明文を挿入。説明文を挿入。説明文を挿入。

■幼稚園の設置状況・利用状況■

		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
公立幼稚園	園					
私立幼稚園	園					
計	園					
定員数	人					
在籍児童数	人					

資料：学校教育課（各年5月1日）

### (3) 認定こども園の設置状況・利用状況

説明文を挿入。説明文を挿入。説明文を挿入。説明文を挿入。説明文を挿入。説明文を挿入。説明文を挿入。説明文を挿入。説明文を挿入。説明文を挿入。説明文を挿入。説明文を挿入。説明文を挿入。説明文を挿入。説明文を挿入。

#### ■認定こども園の設置状況・利用状況■

			令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
認定こども園設置数		園					
1号認定	定員	人					
	在籍児童数	人					
2号認定	定員	人					
	在籍児童数	人					
3号認定	定員	人					
	在籍児童数	人					

資料：保育課（各年10月1日）

### (4) 学童保育施設の設置状況・利用状況

説明文を挿入。説明文を挿入。説明文を挿入。説明文を挿入。説明文を挿入。説明文を挿入。説明文を挿入。説明文を挿入。説明文を挿入。説明文を挿入。説明文を挿入。説明文を挿入。説明文を挿入。説明文を挿入。説明文を挿入。

#### ■学童保育施設の設置状況・利用状況■

		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
設置数	箇所					
定員数	人					
登録児童数	人					

資料：子育て支援課（各年4月1日）

### (5) 子ども食堂・学習支援の実施状況

説明文を挿入。説明文を挿入。説明文を挿入。説明文を挿入。説明文を挿入。説明文を挿入。説明文を挿入。説明文を挿入。説明文を挿入。説明文を挿入。説明文を挿入。説明文を挿入。説明文を挿入。説明文を挿入。説明文を挿入。

#### ■子ども食堂・学習支援の実施状況■

		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
子ども食堂	箇所					
学習支援	箇所					

資料：子育て支援課・生活自立支援課（各年4月1日）



## 第3章 市民アンケート調査からみた本庄市の現状

### 1. 調査の概要

#### (1) 調査の目的と実施概要

本計画を策定するにあたって、次の市民アンケート調査を実施しました。

##### ① 本庄市子ども・子育て支援に関するニーズ調査

市内在住の未就学児及び小学校のいる世帯の中から無作為に抽出した世帯を対象に、「本庄市子ども・子育て支援に関するニーズ調査」を実施しました。この調査は、確保を図るべき教育・保育・子育て支援の「量の見込み」を算出するための基礎資料とするとともに、本市における子育て環境の変化や、市民が求める取り組み等を把握することで、より効果的な子育て支援策を検討することを目的とするものです。

#### ■ 調査の実施概要 ■

調査種別	未就学児の保護者対象調査	小学生の保護者対象調査
調査対象	市内在住の未就学児の保護者	市内在住の小学生の保護者
抽出方法	無作為抽出	無作為抽出
調査方法	郵送法・Web	郵送法・Web
調査時期	令和6年2月～3月	令和6年2月～3月
調査地域	本庄市全域	本庄市全域
配布数	1,500	1,500
有効回収数	855	871
有効回収率	57.00%	58.07%

## ② 本庄市子どもの生活状況調査

市立小学校5年生及び市立中学校2年生の児童・生徒及び、その保護者を対象に、「本庄市子どもの生活状況調査」を実施しました。この調査は、子育て世帯の日ごろの生活の実態把握し、こどもの意見を聴取するとともに、必要なこども施策や子育て世帯への支援策を検討することを目的とするものです。

### ■調査の実施概要■

調査種別	小学生対象調査	中学生対象調査	小中学生の保護者対象調査
調査対象	市立小学校の 小学5年生	市立中学校の 中学2年生	市立小中学校の 小学5年生及び 中学2年生の保護者
抽出方法	原則として全数調査※	原則として全数調査※	原則として全数調査※
調査方法	Web	Web	学校配布 紙及びWeb回答併用
調査時期	令和6年2月～3月	令和6年2月～3月	令和6年2月～3月
調査地域	本庄市全域	本庄市全域	本庄市全域
配布数	599	524	1,123
有効回収数	527	506	656
有効回収率	87.98%	96.56%	58.41%

## ③ 本庄市子ども・若者意識調査

市内在住の16～39歳の市民を対象に、「本庄市子ども・若者意識調査」を実施しました。この調査は、本庄市のこどもや若者世代の考えや現状及び課題を把握し、こどもや若者世代の意見を聴取するとともに、こども・若者施策を検討することを目的とするものです。

### ■調査の実施概要■

調査種別	16～39歳のこども・若者世代対象調査
調査対象	市内在住の16～39歳のこども・若者世代
抽出方法	無作為抽出
調査方法	Web
調査時期	令和6年2月～令和6年3月
調査地域	本庄市全域
配布数	2,000
有効回収数	543
有効回収率	27.15%

## (2) 調査結果における数値の基本的な取り扱いについて

- 比率はすべて百分率(%)で表し、小数点以下2位を四捨五入して算出しています。従って、合計が100%を上下する場合があります。
- 基数となるべき実数は“n = ○○○”として掲載し、各比率はnを100%として算出しています。
- 質問の終わりに【複数回答】とある問は、1人の回答者が2つ以上の回答を出しても良い問

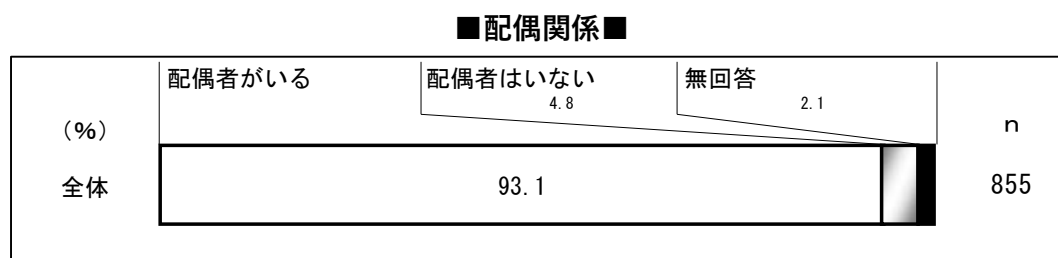
## 2. 市民アンケート調査の結果(概要)

### (1) 未就学児の保護者対象調査(調査名: 本庄市子ども・子育て支援に関するニーズ調査)

#### ① 配偶関係

問4 この調査票にご回答いただいている方の配偶関係についてお答えください。

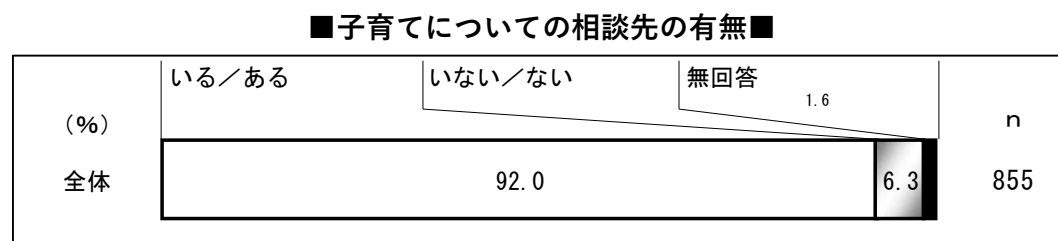
回答者の4.8%が「配偶者はいない」と回答しています。



#### ② 子育てについての相談先の有無

問5 宛名のお子さんの子育て(教育を含む)をする上で、気軽に相談できる人はいいますか。また、相談できる場所がありますか。

回答者の6.3%が気軽に相談できる人や場所が「いない/ない」と回答しています。



### ③ 母親の就労状況

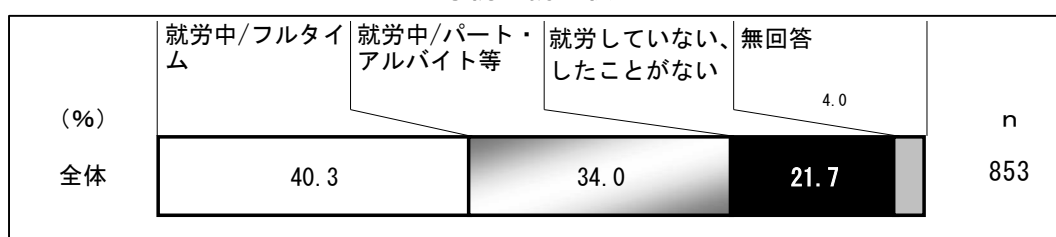
問 6 宛名のお子さんの「母親」の現在の就労状況（自営業、家族従事者含む）についてお答えください。



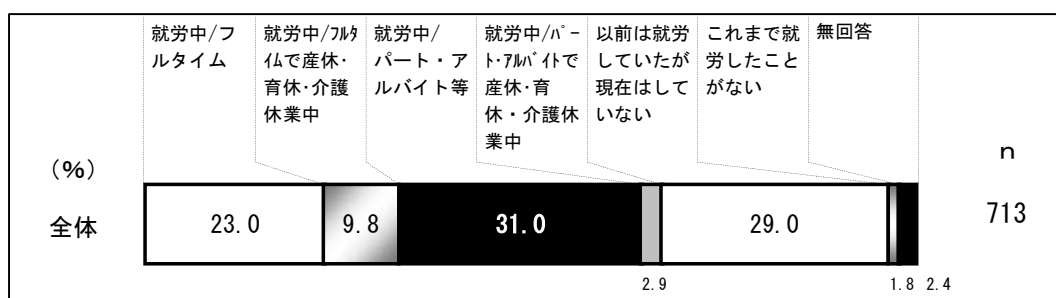
「就労中／フルタイム」（40.3%）、「就労中／パート・アルバイト等」（34.0%）、「就労していない、したことがない」（21.7%）。

前回調査と比較して、「就労中／フルタイム」の割合が7.5ポイント増加した一方、「就労していない、したことがない」が9.1ポイント減少しており、働く母親が増加しています。

#### ■ 母親の就労状況 ■



#### ■（参考）前回調査の結果■



#### ④ 本庄市内の公園に対する満足度

問 24 あなたは、本庄市内の公園に満足していますか。



全体の回答としては、「やや満足」(39.4%)、「やや不満」(24.7%)、「満足」(14.4%)、「不満」(11.3%)、「わからない」(4.2%)となっています。

児玉中学校区で「満足」と「やや満足」を足し合わせた“満足”が他の中学校区と比べてやや低い(43.0%)結果となっています。

■本庄市内の公園に対する満足度■

		満足	やや満足	やや不満	不満	わからない	無回答	n
		(%)						
居住地区 (統合)	全体	14.4	39.4	24.7	11.3	4.2	6.0	855
	本庄東中学校区	16.7	35.1	23.8	14.3	3/6	6.5	168
	本庄西中学校区	17.4	43.0	17.4	9.9	4.1	8.3	121
	本庄南中学校区	15.5	43.6	22.8	8.8	4.4	5.0	342
	児玉中学校区	6.7	36.3	33.0	15.1	3.4	5.6	179
	わからない	36.8	26.3	21.1	5.3	0.0	10.5	19

## ⑤ 公園に不満の理由

※問 24 で、「3. やや不満」または「4. 不満」に○をつけた方

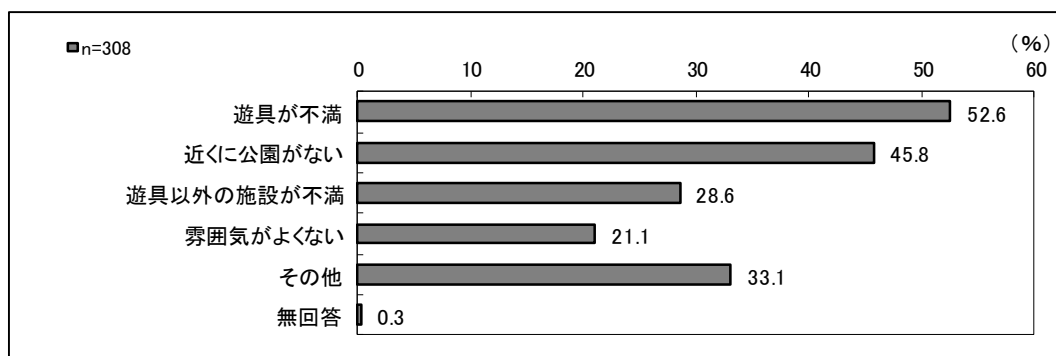
問 24-1 不満の理由は何ですか。【複数回答】



「遊具が不満」(52.6%)、「近くに公園がない」(45.8%)、「遊具以外の施設が不満」(28.6%)、「雰囲気がよくない」(21.1%)、「その他」(33.1%)。

児玉中学校区での不満の理由は「近くに公園がない」が最も高く、62.8%となっています。

■不満の理由■



■クロス集計表■

		合計	問24-1 不満の理由						
			遊具が不満	遊具以外の施設が不満	雰囲気がよくない	近くに公園がない	その他	無回答	非該当
全体		308	162	88	65	141	102	1	547
		100.0%	52.6%	28.6%	21.1%	45.8%	33.1%	0.3%	
居住地区（統合）	本庄東中学校区	64	38	24	19	24	23	0	104
		100.0%	59.4%	37.5%	29.7%	37.5%	35.9%	0.0%	
	本庄西中学校区	33	17	10	10	11	11	1	88
		100.0%	51.5%	30.3%	30.3%	33.3%	33.3%	3.0%	
	本庄南中学校区	108	59	31	25	44	37	0	234
		100.0%	54.6%	28.7%	23.1%	40.7%	34.3%	0.0%	
	児玉中学校区	86	41	19	8	54	24	0	93
		100.0%	47.7%	22.1%	9.3%	62.8%	27.9%	0.0%	
	わからない	5	2	2	0	1	2	0	14
		100.0%	40.0%	40.0%	0.0%	20.0%	40.0%	0.0%	

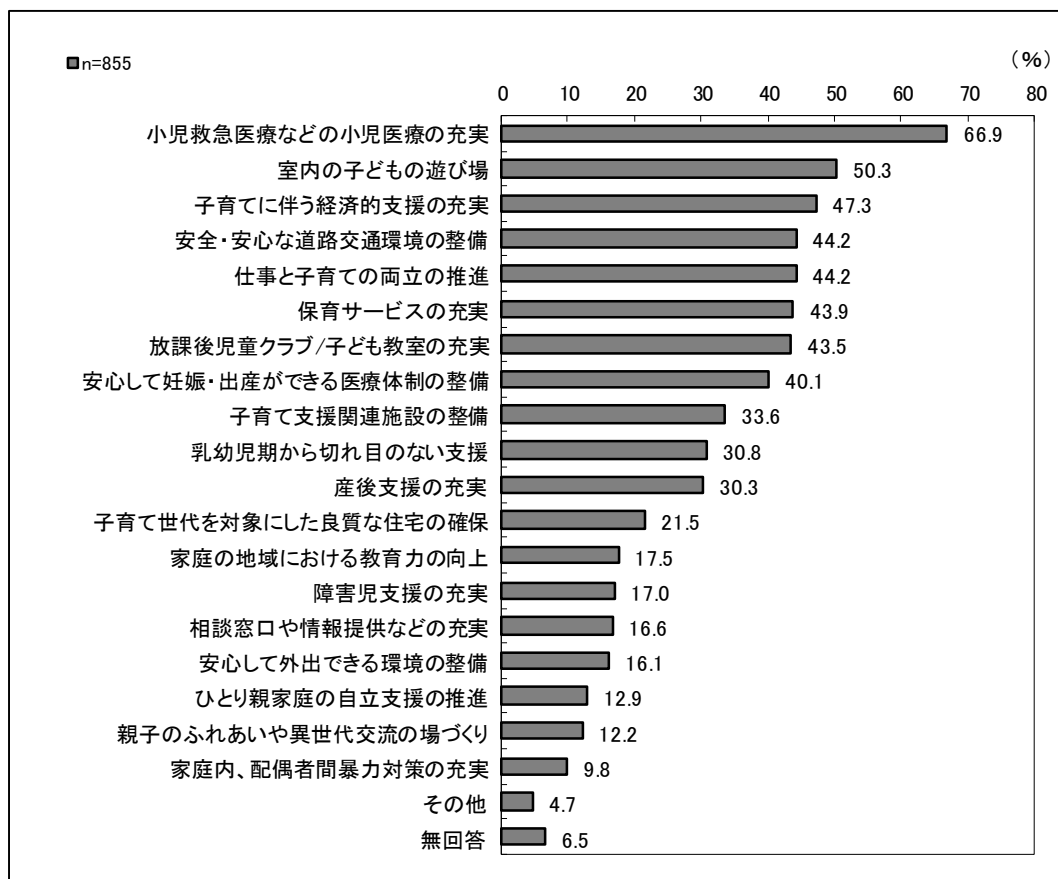
## ⑥ 市が重点的に取り組むべき子育て支援施策

問 25 子育て支援の環境づくりに対する施策について、市が重点的に取り組む必要性が高いと思われるものは何だと思いますか。【複数回答】



「小児救急医療などの小児医療の充実」(66.9%)が最も高い割合を占めています。  
「室内の子どもの遊び場」(50.3%)、「子育てに伴う経済的支援の充実」(47.3%)、「安全・安心な道路交通環境の整備」(44.2%)、「仕事と子育ての両立の推進」(44.2%)、「保育サービスの充実」(43.9%)、「放課後児童クラブ／子ども教室の充実」(43.5%)、「安心して妊娠・出産ができる医療体制の整備」(40.1%)等がこれに続く結果となっています。

### ■市が重点的に取り組むべき子育て支援施策■



## (2) 小学生の保護者対象調査（調査名：本庄市子ども・子育て支援に関するニーズ調査）

### ① 配偶関係

問4 この調査票にご回答いただいている方の配偶関係についてお答えください。



回答者の11.1%が「配偶者はいない」と回答しています。未就学児の保護者対象調査の結果（4.8%）と比較して、6.3ポイント高い結果となっています。

#### ■配偶関係■

	配偶者がいる	配偶者はいない	無回答	
(%)			0.9	n
全体	87.9	11.1		871

### ② 子育てについての相談先の有無

問5 宛名のお子さんの子育て（教育を含む）をする上で、気軽に相談できる人はいますか。  
また、相談できる場所がありますか。



回答者の7.2%が気軽に相談できる人や場所が「いない／ない」と回答しています。未就学児の保護者対象調査の結果（6.3%）と比較して、0.9ポイント高い結果となっています。

#### ■子育てについての相談先の有無■

	いる／ある	いない／ない	無回答	
(%)			0.7	n
全体	92.1	7.2		871



### ③ 母親の就労状況

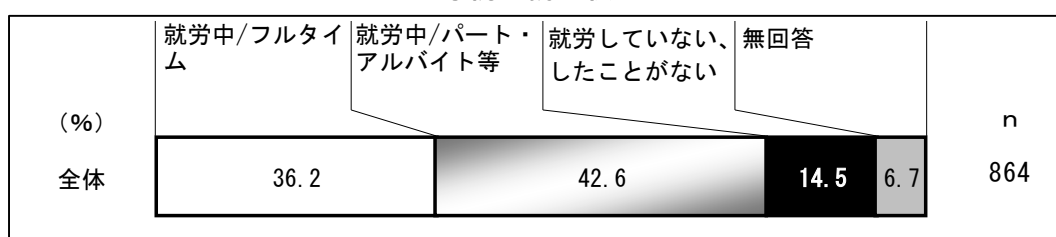
問6 宛名のお子さんの「母親」の現在の就労状況（自営業、家族従事者含む）についてお答えください。



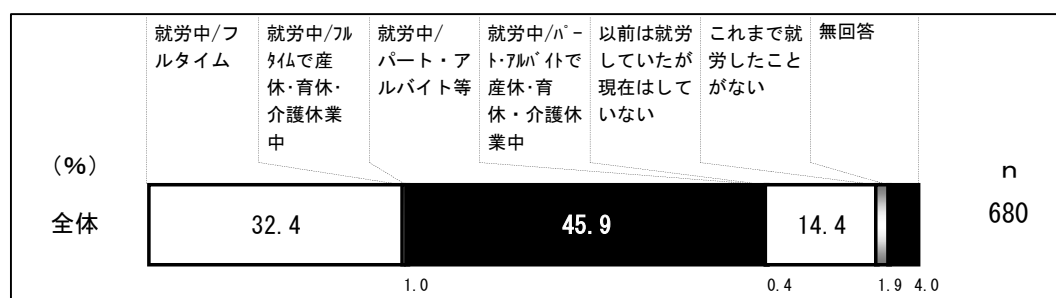
「就労中/パート・アルバイト等」（42.6%）、「就労中/フルタイム」（36.2%）、「就労していない、したことがない」（14.5%）。

前回調査と比較して、「就労中/フルタイム」の割合が2.8ポイント増加した一方、「就労していない、したことがない」が1.8ポイント減少しています。

#### ■ 母親の就労状況 ■



#### ■（参考）前回調査の結果■



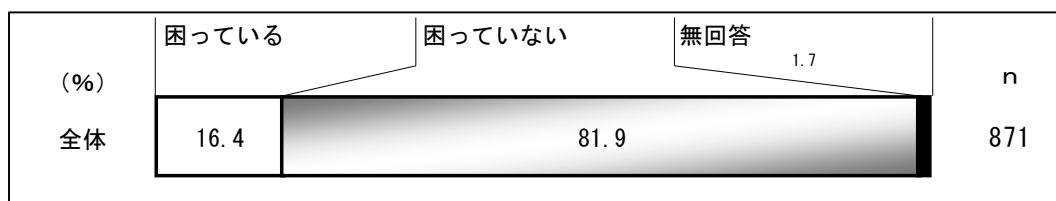
④ こどもの習い事のための交通手段で困っているか

問 16 宛名のお子さんについて、放課後（平日の小学校終了後）や土曜日、日曜日、祝日に、学童保育所や塾、習い事など（以下「習い事等」という。）への送迎について、交通手段で困っていますか。



回答者の 16.4%が「困っている」と回答しています。

■習い事のための交通手段で困っているか■



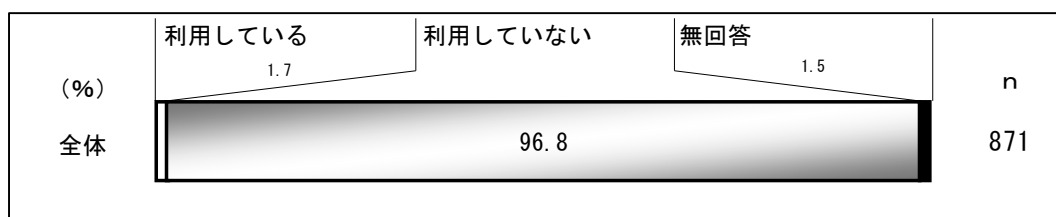
⑤ デマンドバスの利用状況

問 17 市では、デマンドバス※（はにぽん号・もといずみ号）を運行していますが、デマンドバスを利用していますか。



回答者の大半（96.8%）が「利用していない」（96.8%）と回答しています。

■デマンドバスの利用状況■



## ⑥ 習い事等の送迎のためのデマンドバスの利用意向

※問 17 で「2. 利用していない」に○をつけた方のみ

問 17-1 お子さんの習い事等への送迎に、デマンドバスを利用したいと思いますか。



回答者の 21.9%が「利用したいと思う」と回答しています。

■習い事等の送迎のためのデマンドバスの利用意向■

	利用したいと思う	利用したいと思わない	無回答	n
(%)			0.4	
全体	21.9	77.7		843

## ⑦ デマンドバスを利用したいと思わない理由

※問 17-1 で「2. 利用したいと思わない」に○をつけた方のみ

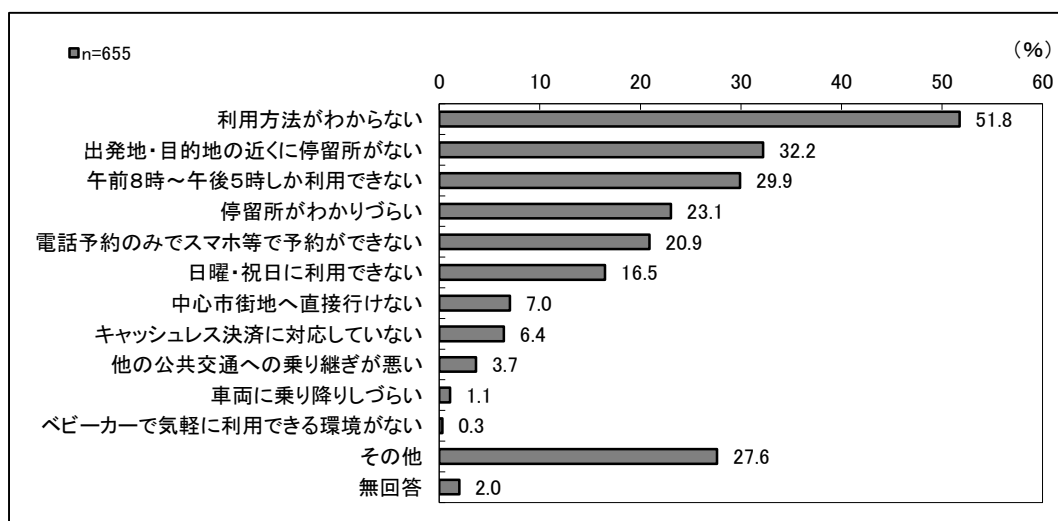
問 17-2 デマンドバス（はにぽん号・もといずみ号）を利用したいと思わない（利用しない）理由を教えてください。【複数回答】



「利用方法がわからない」（51.8%）が過半数を占めています。

「出発地・目的地の近くに停留所がない」（32.2%）、「午前8時～午後5時しか利用できない」（29.9%）、「停留所がわかりづらい」（23.1%）、「電話予約のみでスマホ等で予約ができない」（20.9%）、「日曜・祝日に利用できない」（16.5%）等がこれに続く結果となっています。

■デマンドバスを利用したいと思わない理由■



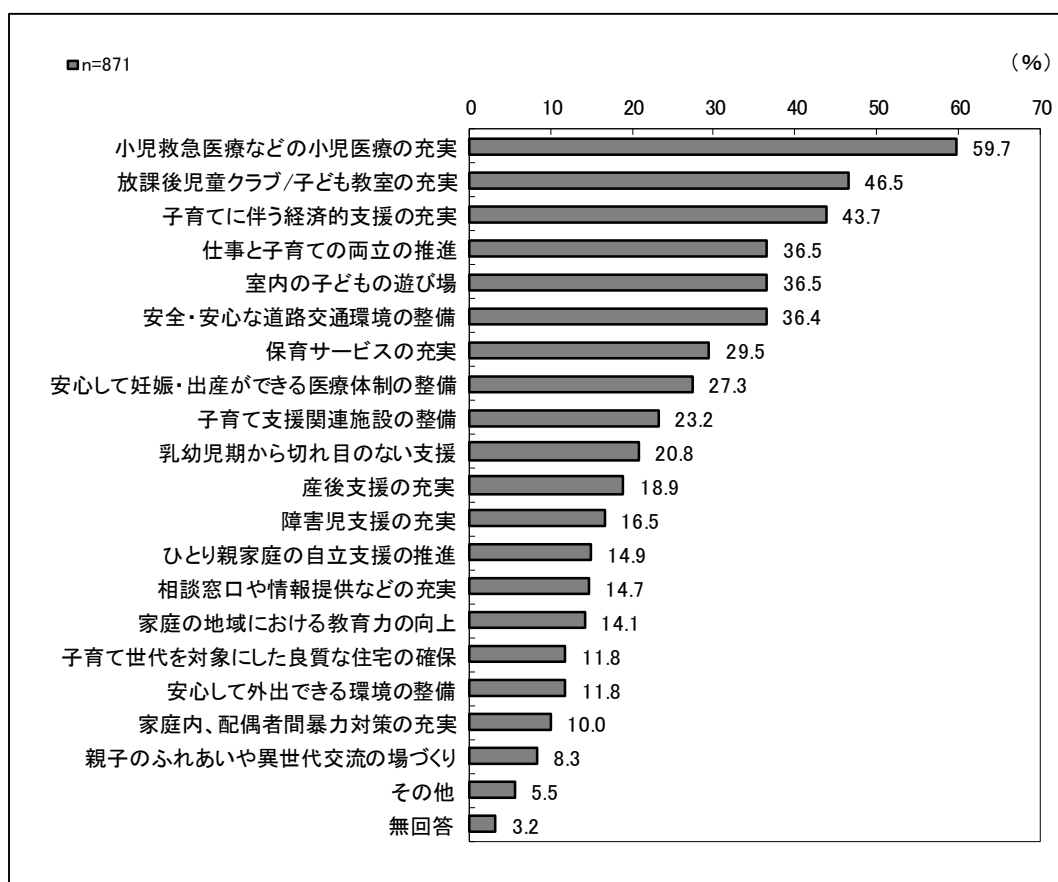
## ⑧ 市が重点的に取り組むべき子育て支援施策

問 18 子育て支援の環境づくりに対する施策について、市が重点的に取り組む必要性が高いと思われるものは何だと思いますか。【複数回答】



「小児救急医療などの小児医療の充実」(59.7%)が過半数を占めています。  
「放課後児童クラブ/子ども教室の充実」(46.5%)、「子育てに伴う経済的支援の充実」(43.7%)、「仕事と子育ての両立の推進」(36.5%)、「室内の子どもの遊び場」(36.5%)、「安全・安心な道路交通環境の整備」(36.4%)等がこれに続く結果となっています。

### ■市が重点的に取り組むべき子育て支援施策■



### (3) 小学生対象調査（調査名：本庄市子どもの生活状況調査）

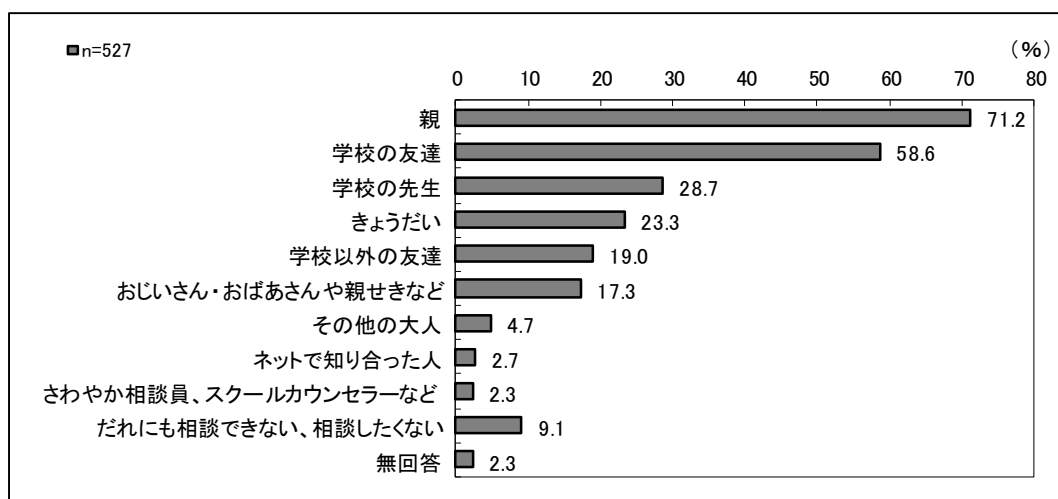
#### ① 困りごとや悩みごとの相談先

問 15 あなたに困っていることや悩みごとがあるとき、あなたが相談できると思う人はだれですか。【複数回答】



「親」（71.2%）、「学校の友達」（58.6%）が高い割合を占めています。  
「学校の先生」（28.7%）、「きょうだい」（23.3%）、「学校以外の友達」（19.0%）、「おじいさん・おばあさんや親せきなど」（17.3%）等がこれに続く結果となっています。  
一方、回答者の 9.1% が「だれにも相談できない、相談したくない」と回答しています。

#### ■困りごとや悩みごとの相談先■



## ② 自宅や学校以外で安心できる場所

問 16 自分の家や学校（授業やクラブ）のほかに、安心できる場所はどこですか。

【複数回答】

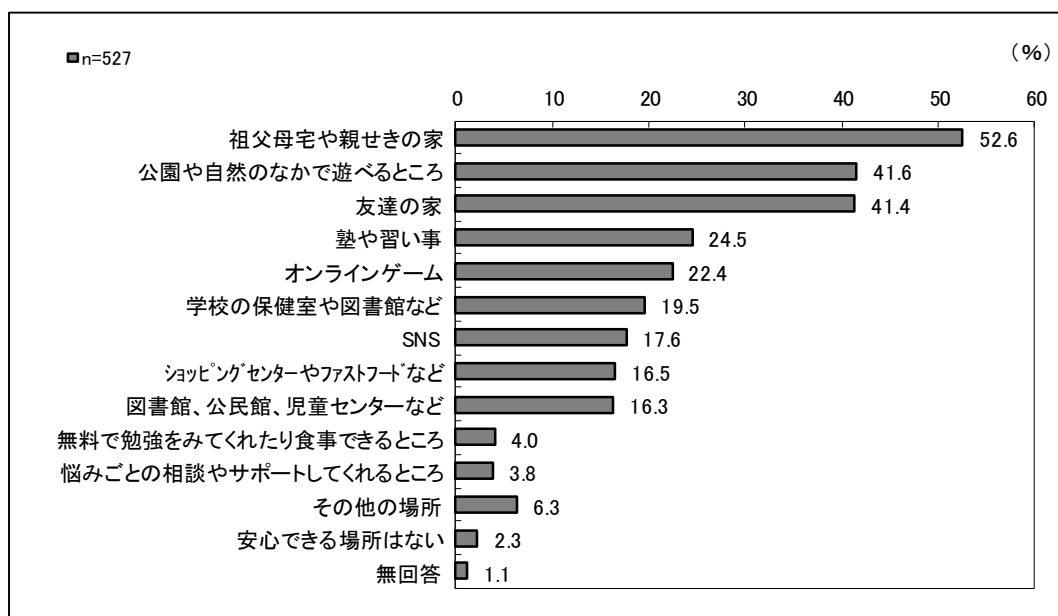


「祖父母宅や親せきの家」（52.6%）、「公園や自然のなかで遊べる場所」（41.6%）、「友達の家」（41.4%）が高い割合を占めています。

「塾や習い事」（24.5%）、「オンラインゲーム」（22.4%）、「学校の保健室や図書館など」（19.5%）、「SNS」（17.6%）、「ショッピングセンターやファストフードなど」（16.5%）、「図書館、公民館、児童センターなど」（16.3%）等がこれに続く結果となっています。

一方、回答者の 2.3% が「安心できる場所はない」と回答しています。

### ■ 自宅や学校以外で安心できる場所 ■



### ③ 大人に代わり家事や世話をしているか

問 20 あなたは大人に代わって家事をしたり家族のお世話をしたりしていますか。（「お世話」とは、ふつう大人が行うようなお世話のことです）

回答者の 34.5%が「している」と回答しています。

■大人に代わり家事や世話をしているか■

(%)	している	していない 1.1	無回答	n
全体	34.5	64.3		527

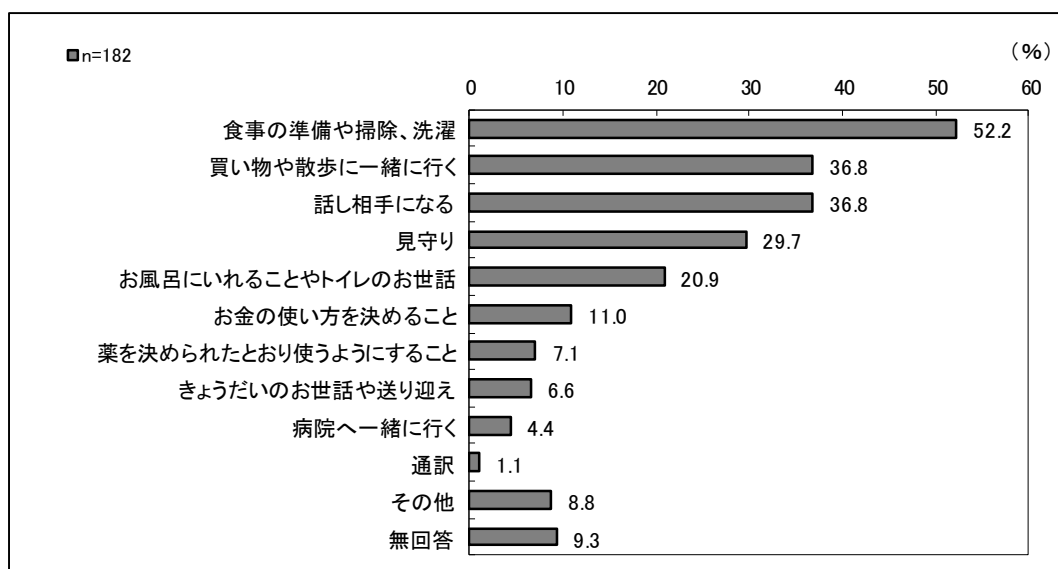
### ④ どのような世話をしているか

※問 20 で、「1. している」と答えた方のみ

③ あなたはどのようなお世話をしていますか。【複数回答】

「食事の準備や掃除、洗濯」（52.2%）が最も高い割合を占めています。

■どのような世話をしているか■



## ⑤ 世話をすることで大変なこと

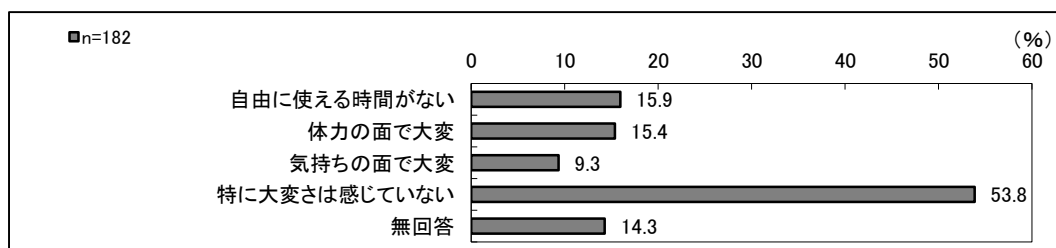
※問 20 で、「1. している」と答えた方のみ

問 23 お世話をすることで大変なことを教えてください。【複数回答】



「特に大変さは感じていない」(53.8%)が過半数を占めています。  
「自由に使える時間がない」(15.9%)、「体力の面で大変」(15.4%)、「気持ちの面で大変」(9.3%)がこれに続く結果となっています。

### ■世話をすることで大変なこと■



## ⑥ 学校や周りの大人にしてもらいたいこと

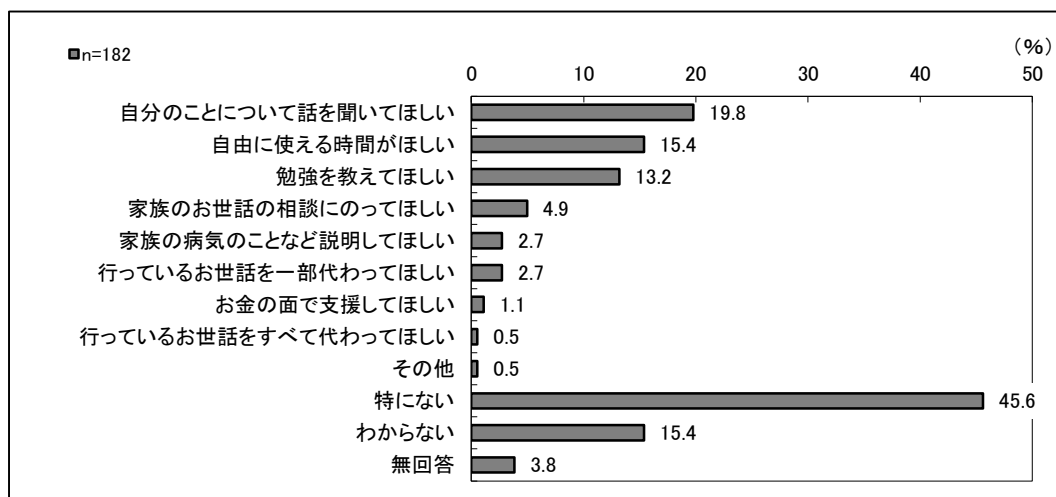
※問 20 で、「1. している」と答えた方のみ

問 25 学校や周りの大人にしてもらいたいことは何ですか。【複数回答】



「特にない」(45.6%)を除くと、「自分のことについて話を聞いてほしい」(19.8%)、「自由に使える時間がほしい」(15.4%)、「勉強を教えてほしい」(13.2%)が高い割合を占める結果となっています。

### ■学校や周りの大人にしてもらいたいこと■





#### (4) 中学生対象調査（調査名：本庄市子どもの生活状況調査）

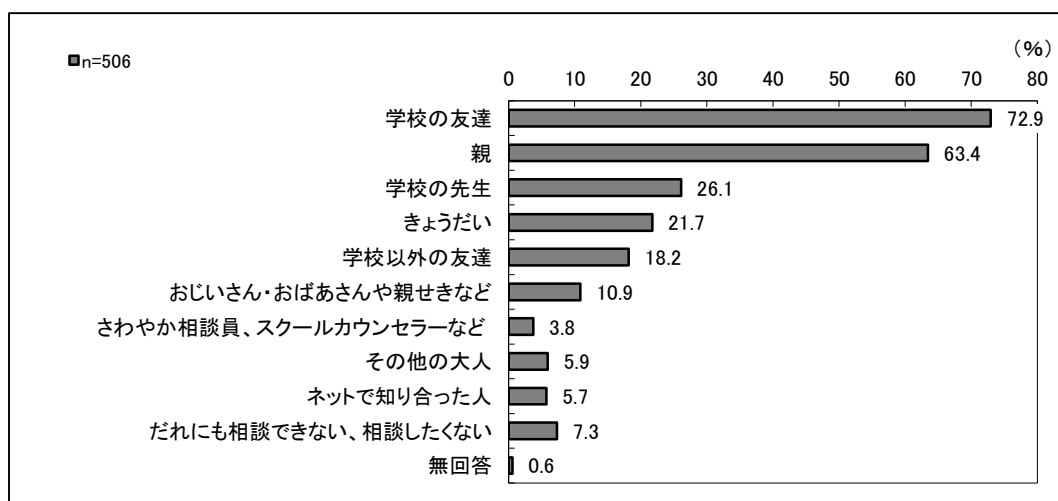
##### ① 困りごとや悩みごとの相談先

問 15 あなたに困っていることや悩みごとがあるとき、あなたが相談できると思う人はだれですか。【複数回答】



「学校の友達」（72.9%）、「親」（63.4%）が高い割合を占めています。  
「学校の先生」（26.1%）、「きょうだい」（21.7%）、「学校以外の友達」（18.2%）、「おじいさん・おばあさんや親せきなど」（10.9%）等がこれに続く結果となっています。  
一方、回答者の 7.3% が「だれにも相談できない、相談したくない」と回答しています。

##### ■困りごとや悩みごとの相談先■



## ② 自宅や学校以外で安心できる場所

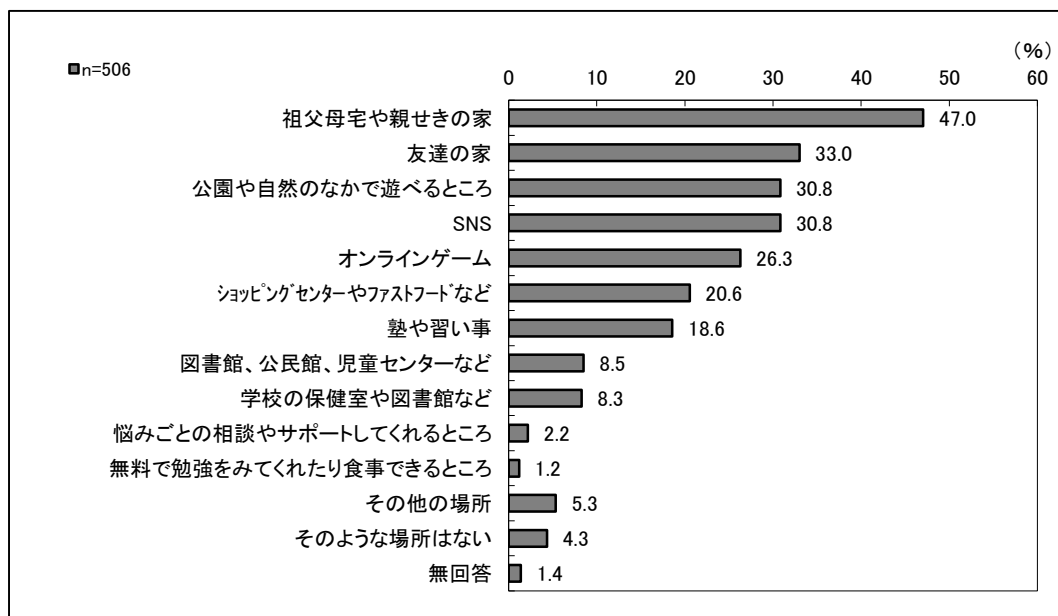
問 16 自分の家や学校（授業やクラブ）のほかに、安心できる場所はどこですか。

【複数回答】



「祖父母宅や親せきの家」（47.0％）が最も高い割合を占めています。  
「友達の家」（33.0％）、「公園や自然のなかで遊べるところ」（30.8％）、「SNS」（30.8％）、  
「オンラインゲーム」（26.3％）、「ショッピングセンターやファストフードなど」（20.6％）、  
「塾や習い事」（18.6％）等がこれに続く結果となっています。  
一方、回答者の 4.3％が「そのような場所はない」と回答しています。

### ■ 自宅や学校以外で安心できる場所 ■



### ③ 大人に代わり家事や世話をしているか

問 20 あなたは大人に代わって家事をしたり家族のお世話をしたりしていますか。（「お世話」とは、ふつう大人が行うようなお世話のことです）

回答者の 20.8%が「している」と回答しています。

■大人に代わり家事や世話をしているか■

(%)	している	していない	無回答	n
全体	20.8	78.7	0.6	506

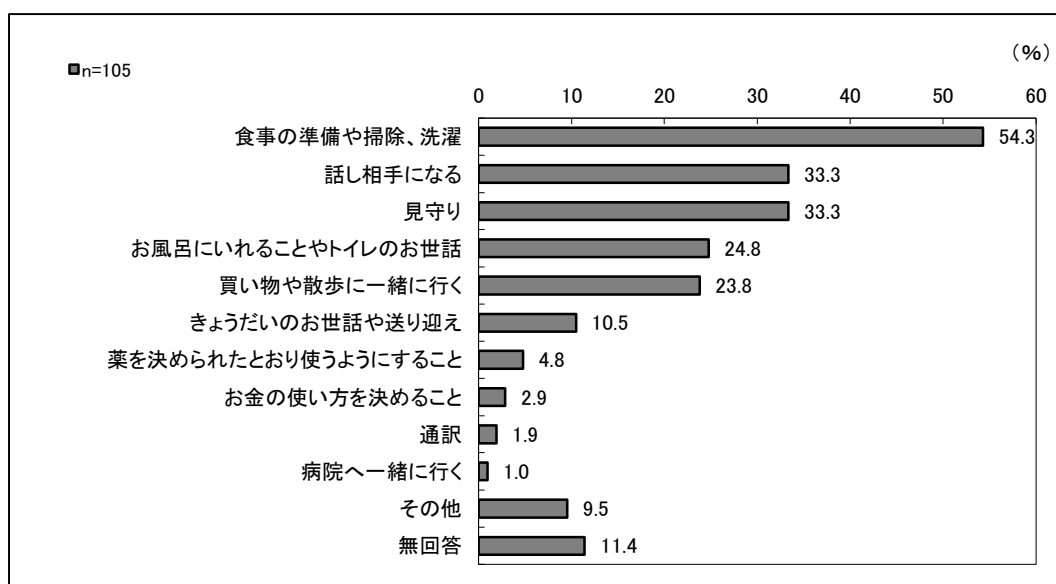
### ④ どのような世話をしているか

※問 20 で、「1. している」と答えた方のみ

③ あなたはどのようなお世話をしていますか。【複数回答】

「食事の準備や掃除、洗濯」（54.3%）が最も高い割合を占めています。

■どのような世話をしているか■



## ⑤ 世話をすることで大変なこと

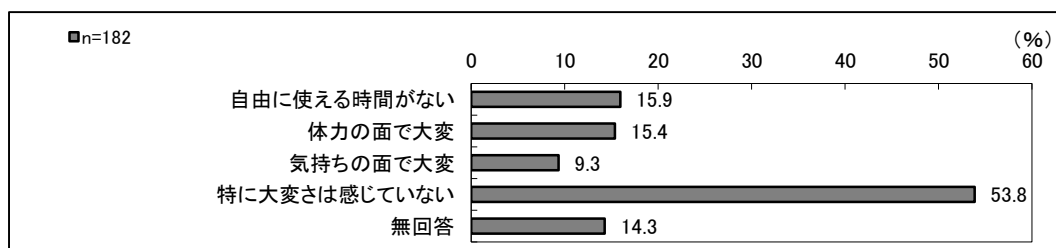
※問 20 で、「1. している」と答えた方のみ

問 23 お世話をすることで大変なことを教えてください。【複数回答】



「特に大変さは感じていない」(61.0%) が過半数を占めています。  
「気持ちの面で大変」(13.3%)、「体力の面で大変」(11.4%)、「自由に使える時間がない」(7.6%) がこれに続く結果となっています。

### ■世話をすることで大変なこと■



## ⑥ 学校や周りの大人にしてもらいたいこと

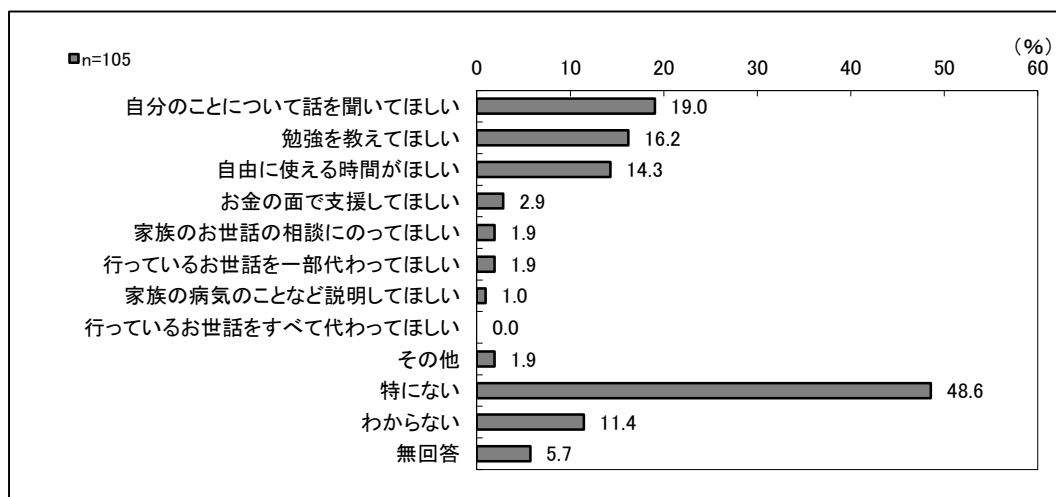
※問 20 で、「1. している」と答えた方のみ

問 25 学校や周りの大人にしてもらいたいことは何ですか。【複数回答】



「特にない」(45.6%) を除くと、「自分のことについて話を聞いてほしい」(19.8%)、「自由に使える時間がほしい」(15.4%)、「勉強を教えてほしい」(13.2%) が高い割合を占める結果となっています。

### ■学校や周りの大人にしてもらいたいこと■



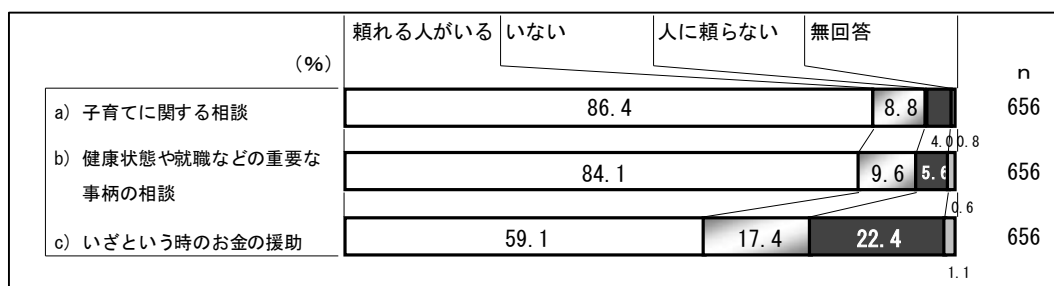
(5) 保護者対象調査（調査名：本庄市子どもの生活状況調査）

① 頼れる人の有無

問 14 あなたは次に挙げる事柄で頼れる人はいますか。

「c) いざという時のお金の援助」について、17.4%が「頼れる人はいない」と回答し、22.4%が「人に頼らない」と回答しています。

■頼れる人の有無■

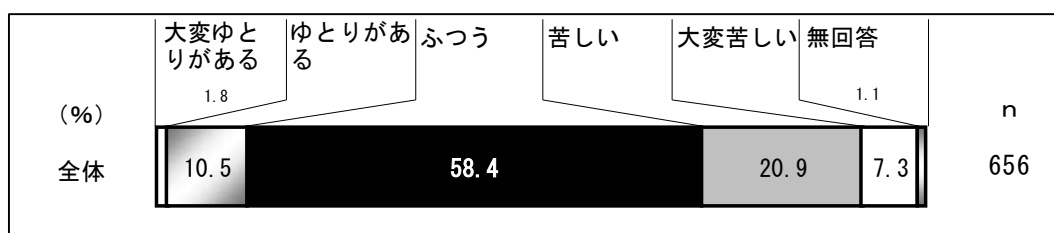


② 現在の暮らしの状況

問 15 あなたは、現在の暮らしの状況をどのように感じていますか。

「ふつう」が58.4%と回答の過半数を占めています。  
一方、「大変苦しい」と「苦しい」を足し合わせると28.2%となり、回答者全体の3割弱を占める結果となっています。

■現在の暮らしの状況■



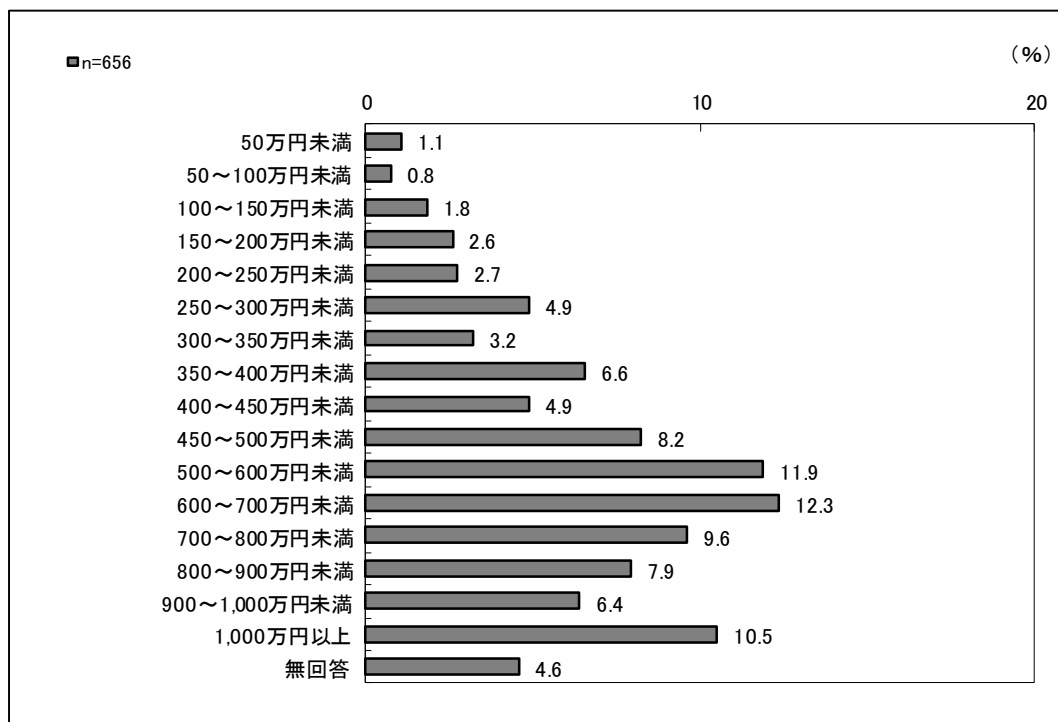
### ③ 世帯全体の年間収入（税込）

問 16 世帯全体のおおよその年間収入(税込)はいくらですか。



世帯年収“300 万円未満”が 13.9%、“300～400 万円未満”が 9.2%、“400～500 万円未満”が 13.1%、“500～700 万円未満”が 24.2%、“700 万円以上”が 34.4%となっています。

■世帯全体の年間収入（税込）■



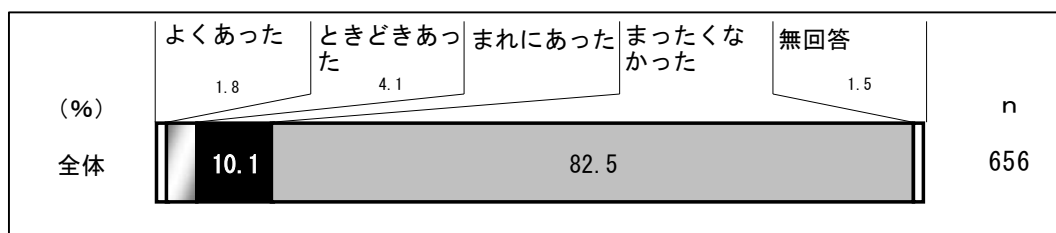
#### ④ 過去１年に食料が買えなかったこと

問 17 あなたの世帯では、過去１年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料が買えないことがありましたか。ただし、嗜好品は含みません。



「まれにあった」「ときどきあった」「よくあった」を足し合わせると、回答者全体の16.0%を占める結果となっています。

##### ■過去１年に食料が買えなかったこと■



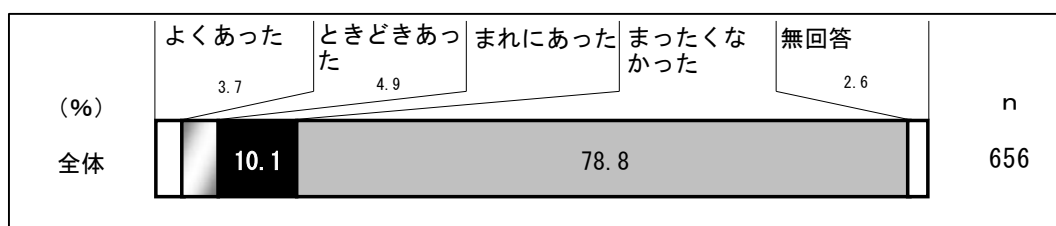
#### ⑤ 過去１年に衣服が買えなかったこと

問 18 あなたの世帯では、過去１年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする衣服が買えないことがありましたか。ただし、高価な衣服や貴金属・宝飾品は含みません。



「まれにあった」「ときどきあった」「よくあった」を足し合わせると、回答者全体の18.7%を占める結果となっています。

##### ■過去１年に食料が買えなかったこと■

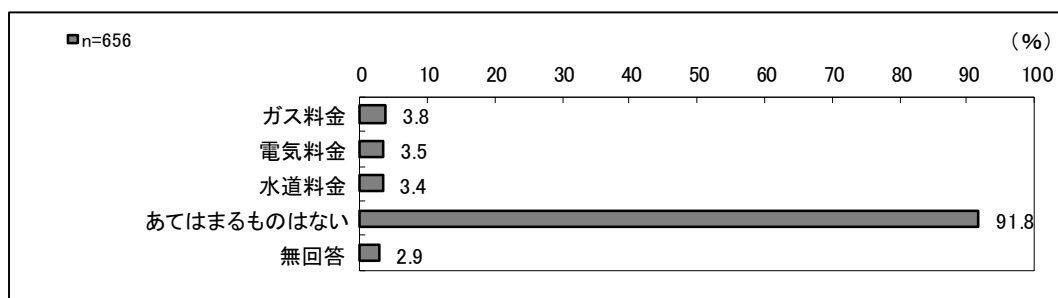


## ⑥ 過去 1 年に未払いになった光熱水費等

問 19 あなたの世帯では、過去 1 年の間に、以下の料金について、経済的な理由で未払いになったことがありますか。【複数回答】

「まれにあった」「ときどきあった」「よくあった」を足し合わせると、回答者全体の 18.7%を占める結果となっています。

### ■過去 1 年に未払いになった光熱費■

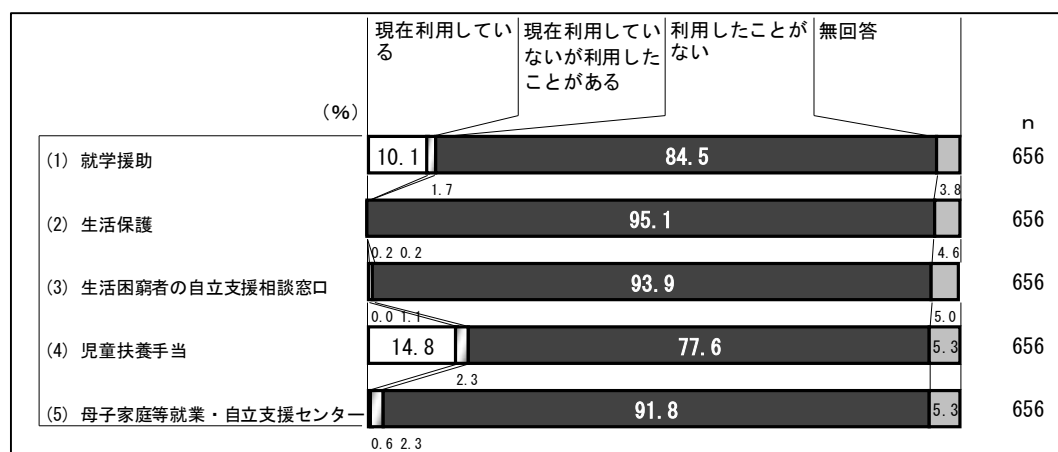


## ⑦ 支援制度の利用状況

問 20 あなたのご家庭では、以下の支援制度をこれまでに利用したことがありますか。

“利用している（利用したことがある）”が最も高い割合を占めたのは『(4)児童扶養手当』で 17.1%となっています。

### ■支援制度の利用状況■





(6) 16～39歳の若者世代対象調査（調査名：本庄市子ども・若者意識調査）

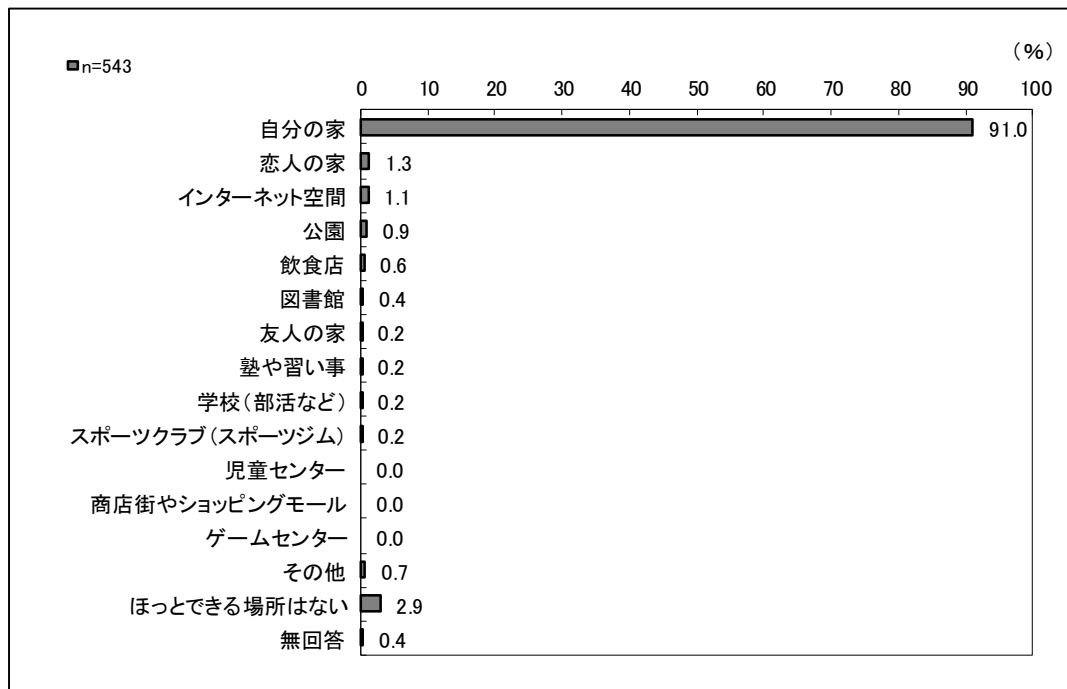
① 一番ほっとできる場所

問 16 あなたが日頃過ごしている場所のうち、一番ほっとできる場所は以下のどれですか。



「自分の家」（91.0％）が回答の大半を占めています。

■一番ほっとできる場所■



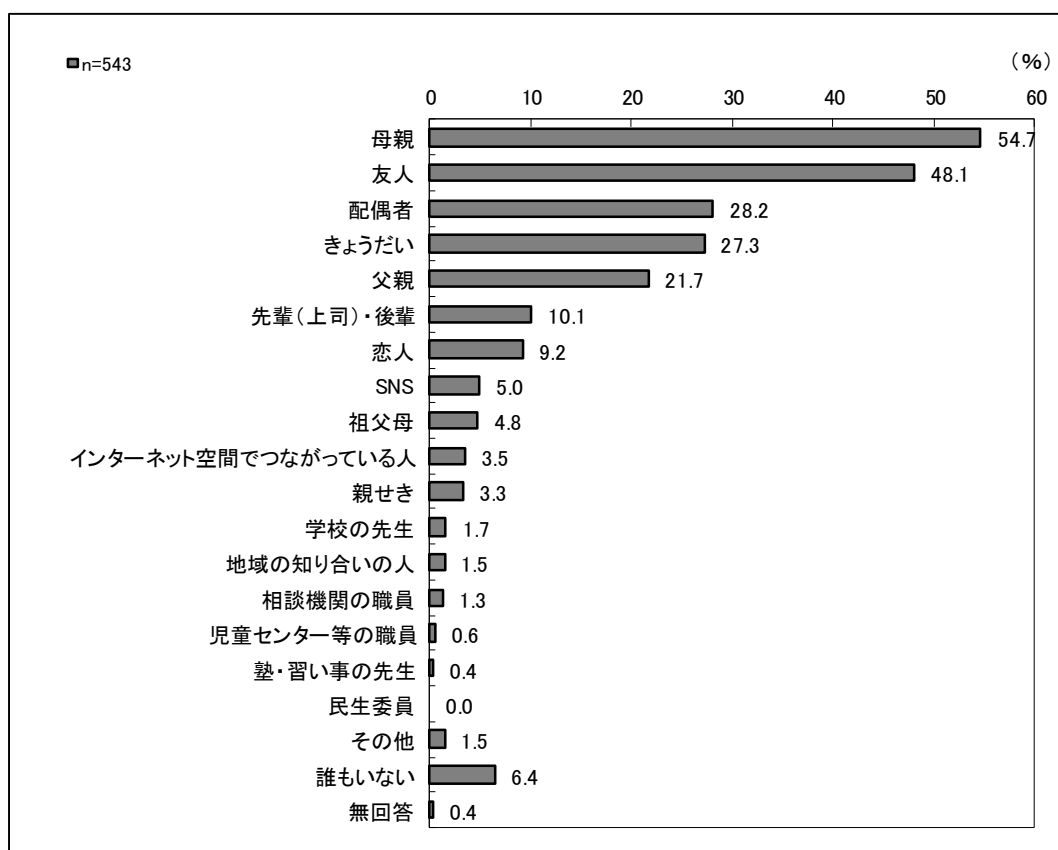
## ② 相談などを気軽に話せる人は誰（どこ）か

問 17 あなたは、何か相談したいことや聞いてほしいことがあったとき、気軽に話せる人がいますか。【複数回答】



「母親」(54.7%)、「友人」(48.1%)が高い割合を占めています。  
「配偶者」(28.2%)、「きょうだい」(27.3%)、「父親」(21.7%)、「先輩(上司)・後輩」(10.1%)、「恋人」(9.2%)等がこれに続く結果となっています。  
一方、回答者全体の6.4%が「誰もいない」と回答しています。

### ■相談などを気軽に話せる人は誰（どこ）か■



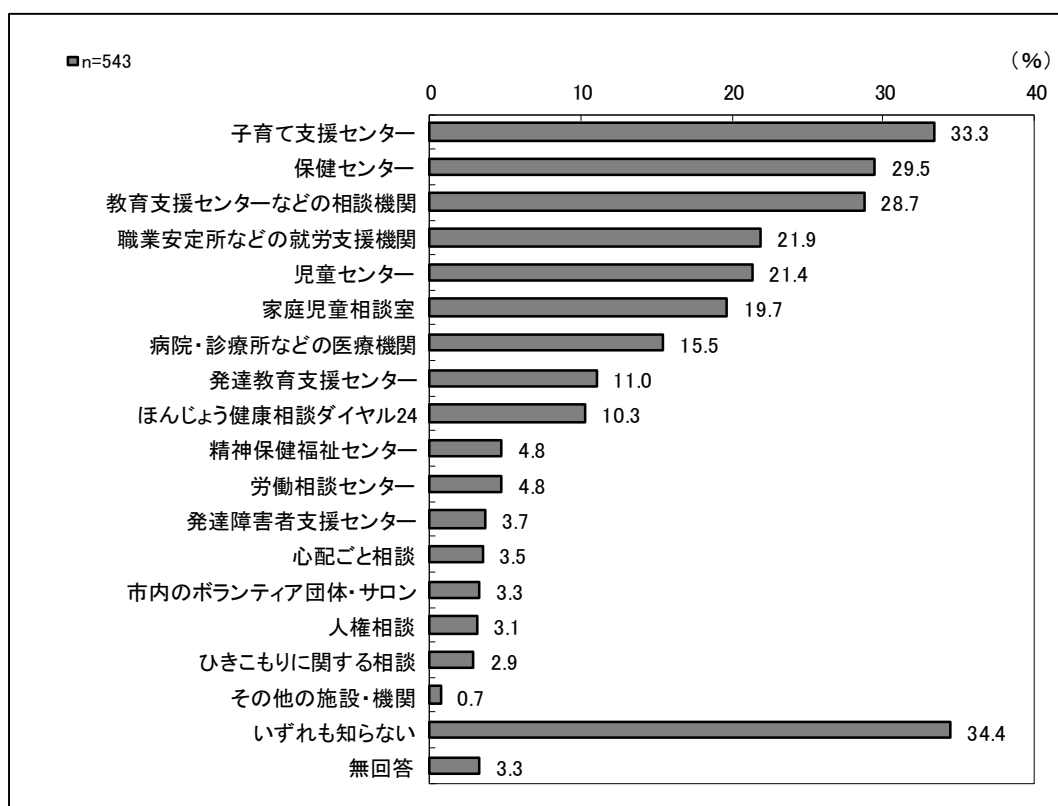
## ② 悩みがあるとき相談できる機関等を知っているか

問 18 あなたは、悩みや聞いてほしいことがあったときに相談できる、次の機関等を知っていますか。【複数回答】



「いずれも知らない」(34.4%)が最も高い割合を占めています。  
「子育て支援センター」(33.3%)、「保健センター」(29.5%)、「教育支援センターなどの相談機関」(28.7%)、「職業安定所などの就労支援機関」(21.9%)、「児童センター」(21.4%)、「家庭児童相談室」(19.7%)等がこれに続く結果となっています。

### ■悩みがあるとき相談できる機関等を知っているか■



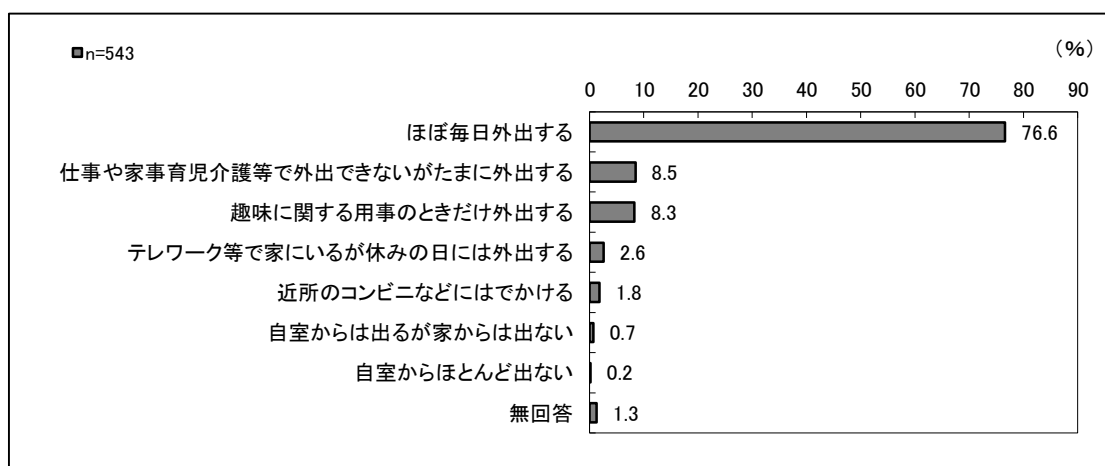
#### ④ ふだんの外出状況であてはまるもの

問 24 ふだんの外出状況であてはまるものはどれですか。



「ほぼ毎日外出する」(76.6%)が最も高い割合を占めています。  
「仕事や家事育児介護等で外出できないがたまに外出する」(8.5%)、「趣味に関する用事の時  
きだけ外出する」(8.3%)、「テレワーク等で家にいるが休みの日には外出する」(2.6%)、  
「近所のコンビニなどにはでかける」(1.8%)、「自室からは出るが家からは出ない」  
(0.7%)、「自室からほとんど出ない」(0.2%)がこれに続く結果となっています。

#### ■ふだんの外出状況であてはまるもの■



## ⑤ 市が特に取り組むべきこと

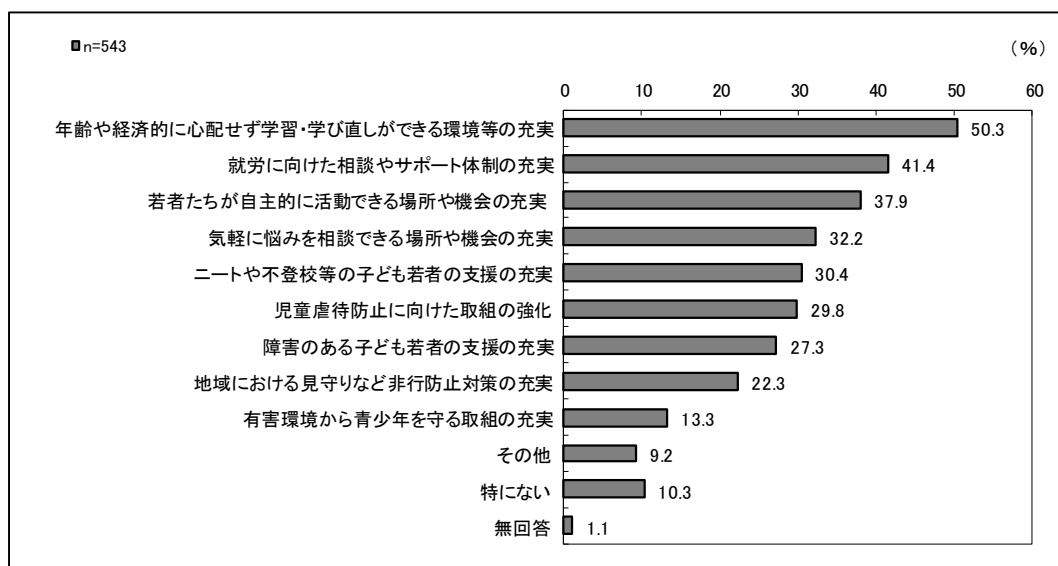
問 31 子ども・若者が希望をもてる本庄市となるために、市が特に取り組むべきことは何だと思いますか。【複数回答】



「年齢や経済的に心配せず学習・学び直しができる環境等の充実」(50.3%)が回答の過半数を占めています。

「就労に向けた相談やサポート体制の充実」(41.4%)、「若者たちが自主的に活動できる場所や機会の充実」(37.9%)、「気軽に悩みを相談できる場所や機会の充実」(32.2%)、「ニートや不登校等の子ども若者の支援の充実」(30.4%)、「児童虐待防止に向けた取組の強化」(29.8%)、「障害のある子ども若者の支援の充実」(27.3%)、「地域における見守りなど非行防止対策の充実」(22.3%)、「有害環境から青少年を守る取組の充実」(13.3%)等がこれに続く結果となっています。

### ■市が特に取り組むべきこと■



## 第4章 団体調査結果からみた本庄市の現状

---

今後実施予定

## 第5章 計画の方向性

---

### 1. 本庄市における課題

#### (1) 仕事と家庭の両立

女性の社会進出の促進に伴い、仕事と家庭の両立が求められています。

就労中の保護者が安心してこどもを預けられるサービスの充実や、社会全体で子どもの育ちを支える地域ぐるみの子育て支援体制の確立が必要です。

#### (2) 子育て世帯の孤立化

核家族やひとり親世帯が増加する一方で、公的な相談機関の認知状況は低い状況にあり、「相談先がない」とする子育て世帯もあります。

家族や地域を第一義的な子育て支援の主体としながらも、公的な相談機関の認知促進とサービスの充実を推進し、子育て世帯の孤立を防ぐことが重要です。

#### (3) 心身に困難を抱えるこどもの支援

市民アンケート調査の結果から、大人に変わり家事や家族の世話をすることのうちの一定数が「体力面」や「精神面」での困難を感じていることがわかっています。

こども本人と子育て家庭の環境を注視しつつ、こどもに寄り添う相談先や、こどもが安心できる居場所の確保が求められています。

#### (4) 経済的に困窮する家庭への支援

円安の進行、エネルギー価格の高騰、これらに附随して長期化している物価の高騰等、国内経済が不安定な状況にある中、子育て世帯の経済環境は厳しさを増しており、市民アンケート調査の結果からも、生活に必要な「衣類」や「食料」が満足に購入できないことがあったとする家庭が1割以上を占めることがわかっています。

このような状況に対し、必要な生活支援やひとり親家庭の自立支援等、生活困窮世帯に対する支援のあり方の検討が必要となっています。

#### (5) 意見を聴かれにくいこどもや若者への支援

収集中の統計資料や団体アンケート調査結果に基づき、必要に応じて課題を記載予定。

## **(6) こどもまんなか社会の実現**

「こども大綱」では、「こどもまんなか社会」の実現を目指しており、こどもの個性や多様性、こどもの権利を尊重し、こども自身の自由で多様な選択や意見の表明を後押しすることが求められています。

本庄市においても、こどもが自由意思による意見を表明できる環境を創造するとともに、こどもの権利が守られる社会の構築が必要です。

また、20代、30代を中心とする若い世代が、仕事と生活を調和させながら、家族を持ち、こどもを産み育てることや、子育てに伴う喜びを実感でき不安なく子育てできるよう、生活基盤の安定化や若い世代の子育てを社会全体で支える体制づくりが必要です。

## **(7) こども・若者、子育て家庭等への総合的な支援体制の構築**

こども・若者、子育て家庭等を総合的に支援していくためには、庁内関係各課による横断的な連携体制の構築のみならず、地域でこども・若者、子育て世帯を支援する関係団体や子育てを応援する企業等、様々な主体が有機的に連携していくことが必要です。

また、こども・若者、子育て家庭を取り巻く様々な課題に対し、特定の年齢や時期で支援が途切れることなく継続されていくことが重要です。こどもや若者、子育て当事者のライフステージに応じて切れ目なく対応し、十分な支援体制を確保することが重要です。



## 2. 計画の基本理念

「こども基本法」は、日本国憲法および児童の権利に関する条約の精神にのっとり、全てのこどもが、将来にわたって幸福な生活を送ることができる社会の実現を目指し、こども政策を総合的に推進することを目的としています。

また、「こども基本法」に基づく「こども大綱」は、従来の「少子化社会対策大綱」、「子供・若者育成支援推進大綱」及び「子供の貧困対策に関する大綱」を一つに束ね、一元化するとともに、さらに必要なこども施策を盛り込むことで、これまで以上に総合的かつ一体的にこども施策を推進していくこととしています。

こうした「こども基本法」や「こども大綱」目的や理念を勘案するとともに、本市の現状や課題を踏まえ、本計画の基本理念を以下のとおり定めます。

### ■計画の基本理念■

**こどもの育ちと幸福を社会で支える**  
**「こどもまんなか」のまち 本庄**

## 3. 基本目標

本計画の基本理念に基づき、本市の子ども・子育て支援施策の方向性を以下のように定めます。

### (1) 基本目標1 次世代の健やかな成長の支援

次代の社会を担うこども・若者が健やかに成長していくことは、本庄市の将来的な発展の基礎となります。しかしながら、社会・経済環境は目まぐるしい変化を繰り返しており、こども・若者の育ちをめぐる環境も厳しさを増しています。

本庄市は、こども・若者の健全育成、生きる力の向上、困難を有するこども・若者やその家族の支援、次世代の成長を支える担い手の養成など、次世代の健やかな成長を支援します。

### (2) 基本目標2 生活困窮世帯のこども及び子育て当事者の支援

こどもの現在及び将来がその生まれ育った環境によって左右されることがあってはなりません。全てのこどもが心身ともに健やかに育成できること及びその教育の機会均等が保障され、こども一人一人が夢や希望を持つことができるようにすることは社会全体の責任です。

本庄市は、生活の困窮がこどもへと受け継がれていく連鎖を断ち切り、現在から将来にわたって、全てのこどもが前向きな気持ちで夢や希望を持つことのできる社会の構築を目指し、親の妊娠・出産期からこどもの社会的自立までの切れ目ない支援を推進します。

また、支援の届きにくい生活困窮世帯の把握に努め、既存の経済的支援事業の利用促進を図るとともに、生活困窮世帯の子育て当事者の生活の安定及び自立の促進を図ります。

### **(3) 基本目標3 社会における子育て支援環境の向上**

核家族やひとり親世帯の増加、女性の社会進出に伴い、家庭と子育ての両立が大きな課題となっています。

本庄市は、育児休業の取得や男性の育児参加の促進を図るため、社会全体での子育て支援に対する機運の醸成を図ります。

また、母子保健の充実を図り、妊娠期から出産、子育て期等、ライフステージに応じた切れ目ない支援を推進します。

### **(4) 基本目標4 子ども・子育て支援事業の推進**

乳幼児期及び学童期の子どもがいる世帯にとって、安心して子どもを預けられる場所や子育ての不安や悩みを共有・相談できる場所の存在は大変重要です。

本庄市は、子育て家庭が安心してこどもを育てられる環境の整備に向けて、適正な教育・保育提供体制の確保及び子ども・子育て支援事業の提供体制の確保を図ります。

### **(5) 基本目標5 こどもまんなか社会の実現に向けた体制整備**

本計画の基本理念は、全てのこども・若者が身体的・精神的・社会的に幸福な生活を送ることができる「こどもまんなか社会」の実現を目指しています。

本庄市は、「こどもまんなか社会」の実現に向け、こどもの権利と尊厳の擁護、こども意見の聴取と政策決定過程へのこどもの参画に向けた体制の整備を図ります。

## 4. 施策の体系

### 基本理念

### 基本目標

### 基本施策

